

現代の国語

教 科	国語	単位数	2	学科・学年	1年
使用教科書	新編 現代の国語(大修館書店)				
副教材等	五訂版 常用漢字オールクリア(尚文出版)				

「現代の国語」の到達目標

- (1) 実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記のしかたなどを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。
- (2) 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述をもとに的確にとらえ、要旨や要点を把握する力、「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開、文体や語句などの表現のしかたを工夫する力、「話すこと・聞くこと」において、話し言葉の特徴をふまえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりする力を養う。
- (3) 文章を読んで筆者の主張を読み取ることに意欲的に取り組む態度、自分の考えを相手が理解できるよう、分かりやすく効果的な文章を書こうとする態度、対話することに興味をもち、相手や場面を意識しながら対話に取り組もうとする態度を養う。

1. 評価の観点の趣旨と方法

	知識・技能(技術)	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記のしかたなどを理解する。 ・話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述をもとに的確にとらえ、要旨や要点を把握する力を身につけている。 ・「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開、文体や語句などの表現のしかたを工夫する力を身につけている。 ・「話すこと・聞くこと」において、話し言葉の特徴をふまえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりする力を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読んで筆者の主張を読み取ることに意欲的に取り組もうとしている。 ・自分の考えを相手が理解できるよう、分かりやすく効果的な文章を書こうとしている。 ・対話することに興味をもち、相手や場面を意識しながら対話に取り組もうとしている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・年5回の定期考査 ・長期休業中に出題される課題および休業あけの宿題テスト ・漢字の小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・年5回の定期考査 ・長期休業中に出題される課題および休業あけの宿題テスト ・グループ討論 ・全体発表 ・ワークシートの記述内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内での取り組み状況 ・ワークシートの記述内容 ・課題等の提出状況

2. 評価の規準 (及び年間の評定)

内容のまとめ(単元)	知識・技能(技術)	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 ことばをひらく ・『「変わる」ことを 楽しもう』	・常用漢字の読みに慣れ、 主な常用漢字を書き、文 章の中で使うことができ る。	・文章を読み、自分の意見 や考えを論述することが できる。	・本文の内容をもとに、自 分が高校生活で取り組 むべきことについて具 体的に考えようとして いる。
2 日本語を使いこなす ・「ことばの使い分け」 ・「伝わるように話そう」	・話し言葉と書き言葉の特 徴や役割、表現の特色を 踏まえ、正確さ、分かり やすさ、適切さ、敬意と親 しさなどに配慮した表現 や言葉遣いについて理 解し、使うことができる。	・話し言葉の特徴を踏ま えて話したり、場の状 況に応じて資料や機 器を効果的に用いたり するなど、相手の理 解が得られるように 表現を工夫すること ができる。	・相手や場面に応じた 言葉遣いを意識し、 相手の理解が得られ る表現になるよう、 粘り強く取り組ん でいる。
3 わかりやすく説明する ・「説明のしかたを とらえよう」 ・『生きることと 食べることの意味』 ・「料理レシピを書こう」	・主張と論拠など情報と 情報との関係について 理解することができる。 ・個別の情報と一般化 された情報との関係に ついて理解することが できる。	・読み手の理解が得ら れるよう、論理の展 開、情報の分量や重 要度などを考えて、 文章の構成や展開 を工夫することが できる。	・情報と情報の関係 を意識し、順序立 てた説明文が書け るように、記述の 調整を行っている。
4 聞く力を育む ・「聞き取りのレ ッスン」 ・「ミニインタビュー をしよう」	・言葉には、認識や 思考を支える働き があることを理 解できる。	・論理の展開を予 想しながら聞き、 話の内容や構成、 論理の展開、表 現の仕方を評価 するとともに、 聞き取った情 報を整理して 自分の考えを 広げたり深 めたりする ことができる。	・必要な情報を 聞き取り、それ をもとに的確 に表現でき るよう、粘 り強く取 組んでいる。
5 論理を読み取る ・『商品と贈り物 の違い』	・比喻、例示、 言い換えな どの修辞や、 直接的な述 べ方や婉曲 的な述べ方 について理 解している。	・文章の種類を 踏まえて、 内容や構成、 論理の展開 などについて 叙述を基に 的確に捉え、 要旨や要 点を把握 することが できる。	・論理的な文章 を的確に 読み取る ことに関 心を持ち、 論理展 開をとら えよう としている。
8 情報と向き合う ・『情報の力 関係』	・情報の妥当 性や信頼性 の吟味の しかたに ついて理 解を深め ることが できる。	・目的に応じ て、文章 や図表 などに 含まれ ている 情報 に関 係付 けな がら、 内 容 や 書 き 手 の 意 図 を 解 釈 す る こ と が で き る。	・情報を吟味 しながら 読むこ とに興 味を もち、 文章 や図 表か ら必 要な 情 報 を 読 み 取 ろ う と し て い る。
10 社会に目を向けて ・『何のために 「働く」のか』	・引用の仕 方や出典 の示し 方、そ れら の必 要性 に つ い て 理 解 を 深 め 使 う こ と が で き て い る。	・目的や場 に応じ て、実 社 会 の 中 か ら 適 切 な 話 題 を 決 め、 様 々 な 観 点 か ら 情 報 を 収 集、 整 理 し て、 伝 え 合 う 内 容 を 検 討 す る こ と が で き る。	・筆者の主張 を読み 取るこ とに積 極的に 取り組 み、そ れに 対す る自 分の 考 え を 深 め よ う と し て い る。
1年間の評定は、1学期・2学期・3学期の年間を通じて、思考・判断・表現を重視し総合的に判断して決定します。			

3. 学習の計画と評価の観点

学期	月	学習内容	学習のねらい	評価の観点			考查範囲
				知・技	思・判・表	主	
1 学期	4	1 ことばをひらく 『「変わる」ことを 楽しもう』	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の考えを読み取り、高校生活を始めるにあたっての参考にする。 ・これからの学習で取り組みたいこと、興味のあることについて、自分の考えを見つめたり話し合ったりする。 	○	○	○	中間 考查
	5	2 日本語を使いこなす 「ことばの使い分け」	<ul style="list-style-type: none"> ・場面や目的に応じて適切な言葉を選ぶ。 ・敬語の正しい使い方や類義語のニュアンスの違いを理解し、適切に使い分ける。 	○	○	○	
	5 6	2 日本語を使いこなす 「伝わるように話そう」	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に伝えたいことを、わかりやすく整理して話す。 	○	○	○	期末 考查
	6	3 わかりやすく説明する 「説明のしかたをとらえよう」	<ul style="list-style-type: none"> ・説明のしかたに注意して文章を読む。 ・順序を表す言葉や接続表現、問題提起と答えに着目して、文章の構成をつかむ。 	○	○	○	
	7	3 わかりやすく説明する 『生きることと食べることの 意味』	<ul style="list-style-type: none"> ・説明のしかたを考えながら読む。 ・文章全体の構成や接続表現の役割をとらえる。 	○	○	○	中間 考查
2 学期	8 9	3 わかりやすく説明する 「絵や写真を説明する」	<ul style="list-style-type: none"> ・絵や写真などの情報を説明する文章を書く。 ・わかりやすい説明のしかたを身につける。 	○	○	○	期末 考查
	10	4 聞く力を育む 「聞き取りのレッスン」	<ul style="list-style-type: none"> ・大切なことを落とさずに、正確に聞く。 ・自分にとって必要な情報を意識して、メモをとりながら聞く。 	○	○	○	
	11	5 論理を読み取る 『商品と贈り物の違い』	<ul style="list-style-type: none"> ・対比の関係を意識しながら読む。 ・具体例の働きをとらえ、具体と抽象の関係を考えながら読む。 	○	○	○	
	12	8 情報と向き合う 『情報の力関係』	<ul style="list-style-type: none"> ・図との関係に注意しながら文章を読み取る。 ・文字、図形、絵などが読者に与える効果の違いについて考える。 	○	○	○	学年 末 考查
3 学期	1	4 聞く力を育む 「ミニインタビューをしよう」	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を相手から引き出せるよう、質問しながら聞く。 ・話の展開に注意し、話を広げたり深めたりしながら聞く。 ・聞き取った情報を活用するためのメモをとる。 	○	○	○	
	2	10 社会に目を向けて 『何のために「働く」のか』	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の問題意識と主張を、具体例に気をつけながら読み取る。 ・読み取ったことをふまえて、自分の考えを広げる。 	○	○	○	

言語文化

教科	国語	単位数	2	学科・学年	1年
使用教科書	新編 言語文化(大修館書店)				
副教材等	常用漢字オールクリア(尚文出版)				

「言語文化」の到達目標は

- (1) 思考するための道具として必要不可欠である語彙を豊かにし、その語彙を正しく使って適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高める。同時に常用漢字の習得を目指す。
- (2) 文章の内容や構成、展開などを的確に捉え、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。そして言語感覚を磨き、我が国の言語文化について自分の考えを持ち、進んで表現することができる。
- (3) 国語の向上やそのことによって社会生活の充実を図る態度を育てる。つまり、文章を読んで筆者の主張を読み取ることに意欲的に取り組む態度、自分の考えを相手が理解できるようわかりやすく効果的な文章を書こうとする態度、対話をすることに興味を持ち相手や場面を意識しながら対話に取り組もうとする態度を養う。

1. 評価の観点の趣旨と方法

	知識・技能(技術)	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文章の中で使っている。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや、古典特有の表現などについて理解している。 ・我が国の言語文化の特質や、外国の文化との関係について理解すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 ・「書くこと」において、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の人物像や心情を読み取ることに興味を持ち、作品の構造を理解しようとしている。 ・古文を読むことに興味を持ち、積極的に読みに慣れようとしている。そして、登場人物の行動や心情を読み取ろうとしている。 ・漢文に興味を持ち、漢文を読む学習に意欲的に取り組み、内容の理解を深めようとしている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・年5回の定期考査 ・漢字の小テスト ・長期休業明けの宿題テスト ・長期休業中に出される課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・年5回の定期考査 ・長期休業明けの宿題テスト ・長期休業中に出される課題 ・ワークシートの記述内容 ・授業中の発言 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業中に出される課題 ・授業への取り組み状況 ・ワークシートの記述内容 ・課題等の提出状況

2. 評価の規準（及び年間の評定）

内容のまとめり(単元)	知識・技能(技術)	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現1 表現を味わう 『とんかつ』	・文章の意味は、文章の中で形成されることを理解している。	・文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。	・登場人物の人物像や心情を読み取ることに興味を持ち、作品の構造を理解しようとしている。
古1 古文に親しむ 『古文冒頭選』 『児のそら寝』	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや、古典特有の表現などについて理解している。	・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	・古文を読むことに興味を持ち、積極的に読みに慣れようとしている。そして、登場人物の行動や心情を読み取ろうとしている。
* 詩歌の調べ 『春のうた/夏のうた/ 秋のうた/冬のうた』	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや、古典特有の表現などについて理解している。	・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	・四季の詩歌を読むことに興味を持ち、詩の形式や表現の特徴を意識しながら、情景や心情を味わおうとしている。
現6 近代文学に触れる 『形』	・文章の意味は、文章の中で形成されることを理解している。	・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。	・作品に興味を持ち、場面や登場人物の設定を捉えて小説を味わおうとしている。
漢1 漢文に親しむ 『訓読のきまり』	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや、古典特有の表現などについて理解している。	・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。	・漢文に興味を持ち、漢文を読む学習に意欲的に取り組み、内容の理解を深めようとしている。
漢2 現代に生きることば 『蛇足』	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや、古典特有の表現などについて理解している。	・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。	・漢文に興味を持ち、漢文を読む学習に意欲的に取り組み、内容の理解を深めようとしている。
古3 物語の広がり 『筒井筒』	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや、古典特有の表現などについて理解している。	・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。	・古文の物語文学に興味を持ち、時代背景を踏まえて登場人物の心情を考えようとしている。
現4 物語を受け継ぐ 『羅生門』	・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文章の中で使っている。	・異なる時代に成立した随筆や小説、物語などを読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする活動を通して、内容の解釈を深めている。	・作品に興味を持ち、小説の構成や登場人物の心情の変化を捉えようとしている。
1年間の評定は、1学期・2学期・3学期の年間を通じて、思考・判断・表現を重視し総合的に判断して決定します。			

3. 学習の計画と評価の観点

学期	月	学習内容	学習のねらい	評価の観点			考查範囲
				知・技	思・判・表	主	
1 学期	4 5	現1 表現を味わう 『とんかつ』	・登場人物の描写から人物像を捉え、場面ごとの心情を読み取る。 ・語り手の役割や場面の展開に着目し、作品の構造を理解する。	○	○	○	中間 考查
	5 6	古1 古文に親しむ 『古文冒頭選』 『児のそら寝』	・繰り返し音読し、古文の読みに慣れる。 ・児と僧たちの行動、心情の移り変わりを読み取る。	○	○	○	期末 考查
	7	* 詩歌の調べ 『春のうた/夏のうた 秋のうた/冬のうた』	・作品に描かれている情景や心情を読み取る。 ・詩歌の形式や表現の特徴について理解を深める。	○	○	○	中間 考查
2 学期	8 9	現6 近代文学に触れる 『形』	・場面や登場人物の設定を的確に捉え小説を味わう。 ・元になった古典作品との比較を踏まえて、内容の解釈を深める。	○	○	○	中間 考查
	10	漢1 漢文に親しむ 『訓読のきまり』	・漢文の訓読のきまりについて理解する。	○	○	○	期末 考查
	11	漢2 現代に生きることば 『蛇足』	・「蛇足」という言葉の意味について、考えを深める。 ・この話で語られている教訓の意義を理解する。	○	○	○	期末 考查
	12	古3 物語の広がり 『筒井筒』	・時代背景を捉えた上で物語を味わう。 ・文章や和歌に現れた登場人物の心情を読み取る。	○	○	○	学年 末 考查
3 学期	1 2 3	現4 物語を受け継ぐ 『羅生門』	・叙述をもとに、場面の様子や人物の心情を想像しながら読む。 ・文章の展開のしかたや表現のしかたに着目し、文章表現を味わう。	○	○	○	学年 末 考查

公共

教 科	公民	単位数	2	学科・学年	1年
使用教科書	高等学校 公共 これからの社会について考える(数研出版)				
副教材等					

「 公共 」の到達目標は

- (1) 現代の諸課題を捉え多角的に考察し、選択・判断するための概念とともに、諸資料から、主体として活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。
- (2) 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断となる考え方や公共領域における基本的原理を活用して、科学的思考や事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論・提案する力を養う。
- (3) よりよい社会の実現を視野に、人権と環境を中心とした現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権をになう公民の一人として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

1. 評価の観点の趣旨と方法

	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、主体として活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共領域における基本的原理を活用して、科学的思考や事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したり提案したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> よりよい社会の実現を視野に、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、人権や環境など現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた前向きな取り組みを行おうとしている。また取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 年5回の定期考査 レポート 授業プリント 	<ul style="list-style-type: none"> 年5回の定期考査 レポート 課題プリント 成果物 	<ul style="list-style-type: none"> 授業プリントの提出状況とその内容 グループ学習における発表内容と合意形成への意欲 レポートの提出状況とその内容 課題プリントの提出状況とその内容 自己評価表による振り返り

2. 評価の規準（及び年間の評定）

内容のまとめり(単元)	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
巻頭 公共的な空間をつくる 私たち	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期は自立や自律をはかる重要な時期であることを理解できている。 ・自分たちが生きる社会が、様々な背景を持つ多様な人々から成り立っていることを理解できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己形成の課題について考察できている。 ・自分と異なる価値観に基づく主張を聴いたり、様々な立場に立って共感的に他者の思いを受け入れたりとすることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らを成長させる人間としての在り方生き方とはどのようなものか主体的に追究できている。 ・自主的に公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体であるという自覚した行動をとることができている。
第1章 公共的な空間における 人間としての在り方 生き方	<ul style="list-style-type: none"> ・近世・近代・現代の世界の思想家の思想内容が理解できている。 ・地球環境問題、資源やエネルギー問題、生命科学や情報技術の進展などの事象について理解できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先哲の思想や生き方から自分自身の生き方を検証し、公共的な空間を作る主体としての自己の生き方について考察できている。 ・公共的な空間における人間としての在り方生き方を考察するための選択・判断の考察できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的に公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体であるという自覚した行動をとることができている。 ・選択・判断の手掛かりとなる考え方を使得、現代の諸課題を主体的に追究できている。
第2章 公共的な空間における 基本的原理	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解できている。 ・日本国憲法の基本原理や保障されている権利が理解できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・このような基本的原理を考察することによって、個人と社会との関わりを多面的・多角的に考察することができている。 ・日本国憲法の基礎にある考え方に着目し、公共的な空間における基本的原理との関連を考察することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民主政治が自らの生活とかかわっていることを理解し、民主社会に主体的に生きる人間のあり方生き方について思索を深められている。 ・日本国憲法で保障されている権利が理解でき、自らの生き方と権利を結びつけることができている。
第3章 ルールを作り守る私 たち	<ul style="list-style-type: none"> ・法や規範の意義や役割が理解できている。 ・公正な裁判には司法権の独立が必要であり、国民の参加が大切であることが理解できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・裁判員制度がどのような目的で創設されたか考察できている。 ・裁判によって国民のどのような権利が守られているのか考察できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な紛争状況を設定し、それを解決するためのルール作りを体験的に行うことができる。
第4章 政治に参加する私 たち	<ul style="list-style-type: none"> ・地方自治や選挙の仕組み、政党の役割を考察することによって具体的に民主政治を支える制度を理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・選挙制度の違いによって、政党制にも大きな違いがでてくることを考察できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・選挙に積極的に参加するなど主権者としての自覚を持つことができている。 ・日々報道される世界の国

	<p>できている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際法の意義や国際紛争を解決する機関の役割が理解できている。 ・国際連盟の組織と役割が理解できている。 ・冷戦の成立とその終結後の国際政治の流れが理解できている。 ・国際社会の中で平和主義を掲げる日本の役割が理解できている。 ・核軍拡から核軍縮への流れが理解できている。 ・現代の世界の紛争や人権問題について理解できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が理想とする選挙制度を選択することができる。 ・集団的安全保障がなぜ有効なのか考察できている。 ・国連の現状と課題について考察できている。 ・NGOもしくはJICA青年海外協力隊と接することにより、国際化を身近に体験し、国際社会の諸問題について判断できている。 ・国際問題について根拠に基づいた自分なりの意見を持ち、他者に説明できている。 	<p>際紛争に関心が持てている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの紛争の解決への筋道は何か提示できている。 ・民族紛争や難民問題など国際政治問題について日常から関心を持っている。 ・NGOもしくはJICA青年海外協力隊と接することにより、国際化を身近に体験し、国際社会の諸問題について主体的に追究できている。
<p>第5章 経済活動を行う私たち</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の企業の果たしている役割が理解できている。 ・中小企業や農業の果たしている役割と現状を理解できている。 ・産業構造の変化と職業選択との関係や、雇用・労働問題について理解できている。 ・市場経済のメカニズムが理解できている。 ・各種経済指標を理解し、その指標の動向を読み解くことができている。 ・金融のしくみを理解し、経済状況に応じて適切な手段を提示できている。 ・政府が経済に果たしている役割を理解できている。 ・財政のしくみを理解し、経済状況に応じて適切な手段を提示できている。 ・社会保障について理 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の企業倫理について考察できている。 ・経済のサービス化が進展し、国民生活にどのような変化をもたらしたか考察できている。 ・需給曲線を使って、どのような場合に価格が変動するのか考察できている。 ・GDP が大きいことが豊かさにつながるのかどうか、豊かさについて自分なりに判断できている。 ・自身の老後生活を予想し、租税（支払い）と社会保障（受取り）とのバランスを考察できている。 ・経済のグローバル化と相互依存関係が深まっていることを理解し、それが日本経済にどのような影響を及ぼしているかを考察できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先端技術が発展するなかで、自分の進路や職業選択を考えることができている。 ・経済社会に主体的に生きる一員として、今後の日本経済について見通しがたてられている。 ・商品の価格は需給関係によって変動するものもあることを理解し、合理的な消費行動がとれている。 ・今後の経済設計がきちんとたてられている。 ・日本の経済について課題を発見し、解決する見通しが持てている。 ・自分たちの日常生活が国際経済と不可分であることを自覚できている。 ・格差のある国際社会で、その克服のために自らがどのようなことができるか考え、実行しようという意欲を持つことができている。

	<p>解できている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 貿易や外国為替相場について、そのしくみが理解できている。 • 戦後の国際経済の流れが理解できている。 • 発展途上国の現状を知り、貧困や飢餓などの原因や課題を理解できている。 		
<p>課題探究編 持続可能な社会づくり の主体となる私たち</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 現代社会に生きる私たちの課題を指摘できている。 • 現代社会の諸問題について、その問題の所在、現状、問題点などが理解できている。 • 現代社会の諸問題について、SDGsとの関連を図ることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 現代社会の諸問題の解決のために、事実を基に協働して考察、構想することができている。 • 現代社会の諸問題を多角的・多面的に考察し、その内容をレポートや口頭発表などによつて的確に表現できている。 	<ul style="list-style-type: none"> • さまざまな課題の中で、自己とのかかわりに注目して主体的に課題を選択し、探究できている。 • それぞれが選択した課題について、今後も継続して探究しようという意欲を持つことができている。 • 現代社会の特質から生じる価値の対立について、主体的に探究できている。
<p>年間の評定は、1学期・2学期・3学期の年間を通して、3観点をバランスよく判断して決定します。</p>			

3. 学習の計画と評価の観点

学期	月	学習内容	学習のねらい	評価の観点			調査範囲
				知・技	思・判・表	主	
1 学期	4	巻頭 公共的な空間を作る私たち 特集1 大人ってどんな人？ 特集2 お互いを尊重するために 特集3 誰もが生きやすい社会へ	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解します。 ・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であることを理解します。 ・伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解します。 ・自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結び付くことについて理解します。 ・社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現します。 	○	○	○	1 学期 中間 調査
	5	第1章 公共的な空間における人間としてのあり方 1節 西洋近現代の思想 1 科学的・合理的な考え方 2 民主社会の倫理 3 他者とともに生きる	<ul style="list-style-type: none"> ・人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けます。 ・倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現します。・選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解します。 ・現代の諸課題について自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、行為者自身の人間としての在り方生き方について探求することが、よりよく生きていく上で重要であることについて理解します。 	○	○	○	

6	第2節 現代の諸課題と倫理 1 地球環境をめぐる問題 2 資源・エネルギーをめぐる問題 3 生命をめぐる問題 4 情報をめぐる問題	<ul style="list-style-type: none"> 様々な課題に対して、各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解します。 現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けます。 	○	○	○	1学期期末考査
	第2章 公共的な空間における基本原理 第1節 民主社会の基本原理 1 民主政治の基本的人権 2 権力分立と法の支配 3 個人と社会のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解します。 人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本原理について理解します。 公共的な空間における基本原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現します。 	○	○	○	
	第2節 日本社会の基本原理 1 日本国憲法と基本原理 2 平等権 自由権 3 社会権 参政権 請求権 4 人権の広がり 5 国会のしくみと役割 6 内閣のしくみと行政機構	<ul style="list-style-type: none"> 日本国憲法の成立過程とその理念を理解し、基本的人権について、公共の福祉との兼ね合いを考察します。 人権保障が世界でどのように広がってきたのか理解します 現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けます。 国会・内閣の機能と役割や関係性について理解します。 日本の政治機構と政治参加について、幸福・自由・正義・公正などの視点を用いて、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断し、構想したことを議論します。 	○	○	○	
2 7 学期	第3章 ルールをつくり守る私たち 第1節 法と契約 1 法・規範の意義と役割 2 経済社会とルール 3 契約と消費者の権利	<ul style="list-style-type: none"> 法や規範の意義及び役割について理解します。 多様な契約及び消費者の権利と責任などに関わる現実社会の事柄や課題について理解します。 現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けます。 	○	○	○	2学期中間考査
	第2節 司法参加の意義 1 司法権と日本の裁判制度 2 司法参加の意義	<ul style="list-style-type: none"> 裁判所の機能と役割、人権を保障するためのしくみについて理解します。 司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題について理解します。 	○	○	○	

8・9	<p>第4章 政治に参加する私たち</p> <p>第1節 政治参加と民主政治の課題</p> <p>1 選挙の役割と意義</p> <p>2 政党の役割</p> <p>3 地方自治の現状と課題</p> <p>4 世論の形成と政治参加</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地方自治、政治参加と公正な世論の形成などに関わる現実社会の事柄や課題について理解します。 現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けます。 日本の政治機構と政治参加について、幸福・自由・正義・公正などの視点を用いて、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断し、構想したことを議論します。 	○	○	○	
10	<p>第2節 国際政治の動向</p> <p>1 国際社会と国際法</p> <p>2 戦後の国際情勢</p> <p>3 現代の紛争</p>	<ul style="list-style-type: none"> 国家主権、領土などに関わる現実社会の事柄や課題について理解します。 第二次世界大戦後の国際社会の動向、冷戦終結後の国際社会の変容について理解します。 現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けます。 国際政治に関わる現実社会の諸課題について、幸福・自由・正義・公正などの視点を用いて、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断し、構想したことを議論します。 	○	○	○	
11	<p>第3節 国際政治の課題と日本の役割</p> <p>1 日本の安全保障</p> <p>2 日本の防衛体制</p> <p>3 軍縮への動き</p> <p>4 国際連合の組織と課題</p> <p>5 世界の人権問題と日本</p>	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の安全保障と防衛などに関わる現実社会の事柄や課題について理解します。 核兵器の廃絶などの軍縮、国際平和に向けた世界の取り組みについて理解します。 国際連合の役割と課題について理解します。 人種・民族・難民問題などに関わる現実社会の事柄や課題について理解します。 現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けます。 国際政治に関わる現実社会の諸課題について、幸福・自由・正義・公正などの視点を用いて、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断し、構想したことを議論します。 	○	○	○	2学期末考査
12	<p>第5章 経済活動を行う私たち</p> <p>第1節 経済のしくみと産業の変化</p> <p>1 経済のしくみ</p> <p>2 企業の働きと役割</p> <p>3 日本を支える中小企業と農業</p> <p>4 産業構造の変化と職業</p> <p>5 労働者の権利</p> <p>6 現代の労働問題</p>	<ul style="list-style-type: none"> 経済活動と経済主体、市場経済の機能と限界について理解します。 現代の企業の在り方と課題を理解します。 中小企業、農業問題に関わる現実社会の事柄や課題を理解します。 現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けます。 労働問題に関わる現実社会の諸課題について、幸福・自由・正義・公正などの視点を用いて、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断し、提案したことを議論します。 	○	○	○	学年末考査

3 学 期	1	<p>第2節 市場経済のしくみと金融</p> <p>1 市場経済のしくみと物価</p> <p>2 国民所得と経済成長</p> <p>3 金融の役割と金融政策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国民経済全体をはかる国民所得などの指標、景気変動と物価の動きについて理解します。 ・金融の働きなどに関わる現実社会の事柄や課題を理解します。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けます。 	○	○	○
	1	<p>第3節 財政と社会保障</p> <p>1 財政と租税の役割</p> <p>2 公害対策と環境保全</p> <p>3 少子高齢化社会における社会保障</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・財政及び租税の役割、に関わる現実社会の事柄や課題を理解します。 ・公害の防止と環境保全、エネルギーと循環型社会などに関わる現実社会の事柄や課題を理解します。 ・社会保障に関わる現実社会の諸課題について、幸福・自由・正義・公正などの視点を用いて、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断し、構想したことを議論します。 	○	○	○
	2・3	<p>第4節 国際経済の動向と課題</p> <p>1 国際経済のしくみ</p> <p>2 戦後の国際経済体制</p> <p>3 グローバル化と現代の国際経済</p> <p>4 地域経済統合</p> <p>5 南北問題とその課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・貿易と国際分業、外国為替のしくみと国際収支について理解します。 ・戦後国際経済の枠組みとその変化について理解します。 ・経済のグローバル化と相互依存関係の深まりなどに関わる現実社会の事柄や課題について理解します。 ・EU や USMCA などの地域統合の進展などに関わる現実社会の事柄や課題を理解します。 ・南北問題や新興市場国などの国家間格差などに関わる現実社会の事柄や課題を理解します。 ・国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を理解します。 	○	○	○
		<p>課題探究編</p> <p>持続可能な社会づくりの主体となる私たち</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見だし、その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述します。 	○	○	○

数学 I

教 科	数学	単位数	3	学科・学年	1 年
使用教科書	改訂版 新編 数学 I (数研出版)				
副教材等	改訂版 3TRIAL 数学 I (数研出版)				

「 数学 I 」の到達目標は

- (1) 数と式, 図形と計量, 二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに, 事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 命題の条件や結論に着目し, 数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力, 図形の構成要素間の関係に着目し, 図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力, 関数関係に着目し, 事象を的確に表現してその特徴を表, 式, グラフを相互に関連付けて考察する力, 社会の事象などから設定した問題について, データの散らばりや変量間の関係などに着目し, 適切な手法を選択して分析を行い, 問題を解決したり, 解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。
- (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度, 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。

1. 評価の観点の趣旨と方法

	知識・技能 (技術)	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・ 事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 	数学を活用して事象を論理的に考察する力, 事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり, 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・ 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善しようとしたりしている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年5回の定期考査 ・ 長期休業あけの宿題テスト ・ 単元テスト ・ 小テスト ・ 課題の出来栄 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年5回の定期考査 ・ 長期休業あけの宿題テスト ・ 単元テスト ・ 課題の出来栄 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業ノートのまとめかた ・ 授業の取り組み状況 ・ 課題の取り組み状況

2. 評価の規準（及び年間の評定）

内容のまとめり(単元)	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1章 数と式	<ul style="list-style-type: none"> ・単項式や多項式，同類項，次数など式に関する用語を理解している。 ・同類項をまとめたり，ある文字に着目して降べきの順に整理したりすることができる。 ・多項式の加法，減法の計算ができる。 ・指数法則を理解し，多項式の乗法の計算ができる。 ・展開の公式を利用できる。 ・因数分解の公式を利用できる。 ・分数を循環小数で表すことができる。 ・絶対値の意味と記号表示を理解している。 ・平方根の意味，性質を理解している。 ・根号を含む式の加法，減法，乗法の計算ができる。また，分母の有理化ができる。 ・不等号の意味を理解し，数量の大小関係を式で表すことができる。 ・不等式の性質を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・式の展開は分配法則を用いると必ずできることを理解している。 ・式を1つの文字におき換えることによって，式の計算を簡略化することができる。 ・複雑な式についても，項を組み合わせる，降べきの順に整理するなどして見通しをよくすることで，因数分解をすることができる。 ・因数分解を行うのに，文字のおき換えを利用することができる。 ・四則計算を可能にするために数が拡張されてきたことを理解している。 ・実数を数直線上の点の座標として捉えられる。また，実数の大小関係と数直線に関係づけて考察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単項式，多項式とその整理の仕方に関心を持ち，考察しようとする。 ・多項式の乘法には，数の場合と同様に分配法則が使えることに興味を持ち，考察しようとする。 ・式の変形，整理などの工夫において，よりよい方法を考察しようとする。 ・今まで学習してきた数の体系について整理し，考察しようとする。 ・対称式の値の求め方に興味を示し，自ら考察しようとする。 ・循環小数が分数で表現できることに興味を持ち，考察しようとする。
2章 集合と論証	<ul style="list-style-type: none"> ・集合とその表し方を理解している。また，2つの集合の関係を，記号を用いて表すことができる。 ・空集合，共通部分，和集合，補集合について理解している。 ・ド・モルガンの法則を理解している。 ・命題の真偽，反例の意味を理解し，集合の包含関係や反例を調べることで，命題の真偽を決定することができる。 ・必要条件，十分条件，必要十分条件，同値の定義を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベン図などを用いて，集合を視覚的に表現して考察することができる。 ・命題の真偽を，集合の包含関係に結び付けてとらえることによって考察することができる。 ・命題の条件や結論に着目し，命題に依じて対偶の利用や背理法の利用を適切に判断することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集合について，それぞれの特徴や関係に合った表現方法を考察しようとする。 ・条件を満たすものの集合の包含関係が，命題の真偽に関連していることに着目し，命題について調べようとする態度がある。 ・直接証明法では難しい命題も，対偶を用いた証明法や背理法を用いると鮮やかに証明できることに興味・関心を持ち，実際に証明しようとする。

	<ul style="list-style-type: none"> ・命題の逆・対偶・裏の定義と意味を理解し、それらの真偽を調べることができる。 		
3章 2次関数	<ul style="list-style-type: none"> ・$y = ax^2$, $y = ax^2 + q$, $y = a(x - p)^2$, $y = a(x - p)^2 + q$ の表記について、グラフの平行移動とともに理解している。 ・$ax^2 + bx + c$ を $a(x - p)^2 + q$ の形に変形できる。 ・2次方程式の解き方として、因数分解、解の公式を理解している。 ・判別式 $D = b^2 - 4ac$ の符号と実数解の個数の関係を理解している。 ・2次不等式を解くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2次関数の特徴について、表、式、グラフを相互に関連付けて多面的に考察することができる。 ・放物線の平行移動を、頂点の移動に着目して、考察することができる。 ・2次関数の値の変化をグラフから考察することができる。 ・2次関数の決定において、条件を処理するのに適した式の形を判断することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・放物線のもつ性質に興味・関心を示し、自ら調べようとする。 ・2次関数 $y = ax^2 + bx + c$ について、頂点、軸の式を考察しようとする。 ・放物線の平行移動や対称移動の一般式を考察しようとする。 ・2次関数の決定条件に興味、関心をもち、考察しようとする。 ・2次方程式がどんな場合でも解けるように、解の公式を得て、それを積極的に利用しようとする。
4章 図形と計量	<ul style="list-style-type: none"> ・直角三角形において、正弦、余弦、正接が求められる。 ・三角比の定義から、辺の長さを求める関係式を考察することができる。 ・直角三角形の辺の長さを三角比で表す式を理解し、測量などの応用問題に利用できる。 ・三角比の相互関係を利用して、1つの値から残りの値が求められる。 ・三角比の値から θ を求めることができる。また、1つの三角比の値からの残りの値を求めることができる。 ・正弦定理を用いて、三角形の辺の長さや外接円の半径が求められる。 ・余弦定理を用いて、三角形の辺の長さや角の大きさが求められる。 ・余弦定理や正弦定理を用いて、三角形の残りの辺の長さや角の大きさを求めることができる。 ・三角比を用いた三角形の面積を求める公式を 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事象を三角比の問題としてとらえることができる。 ・三平方の定理をもとに三角比の相互関係を考察することができる。 ・正弦定理を測量に応用できる。 ・余弦定理を測量に応用できる。 ・三角形の面積を、決定条件である2辺とその間の角または3辺から求めることができる。 ・空間図形への応用において、適当な三角形に着目して考察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の事象や社会の事象などに三角比を活用しようとする。 ・三角比の相互関係を調べようとする。 ・三角比を鋭角から鈍角まで拡張して考察しようとする。

	理解している。 ・3辺が与えられた三角形の面積を求めることができる。		
5章 データの分析	<ul style="list-style-type: none"> 度数分布表, ヒストグラムについて理解している。 平均値や最頻値, 中央値の定義や意味を理解し, それらを求めることができる。 範囲や四分位範囲の定義やその意味を理解し, それらを求めることができる。また, データの散らばりを比較することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> データの分布の仕方によっては, 代表値として平均値を用いることが必ずしも適切でないことを理解している。 データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> データを整理して全体の傾向を考察しようとする。 身近な統計における代表値の意味について考察しようとする。 データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察しようとする。
1年間の評定は、1学期・2学期・3学期の年間を通じて、知識・技能を重視して総合的に判断し決定します。			

3. 学習の計画と評価の観点

学期	月	学習内容	学習のねらい	評価の観点			審査範囲
				知・技	思・判・表	主	
1 学期	4	1章 数と式 1節 式の計算	一つの文字に着目したり、置き換えたりするなどして、いろいろな式の見方ができる。 数を拡張する意義や過程を理解する。	○		○	中間 審査
	5	2節 実数	分母の有理化の意味を理解し、簡単な無理数についての四則演算ができる。	○	○	○	
	6	3節 1次不等式	1次不等式とその解の意味について理解し、解を求めるための基礎的な知識を身につける。	○	○	○	期末 審査
	7	3章 2次関数 1節 2次関数とグラフ	2次関数 $y=ax^2+bx+c$ のグラフを $y=ax^2$ のグラフをもとにしてかくことができる。 2次関数の式やグラフを用いて、2次関数の最大値・最小値を求めることができる。	○	○	○	
	8						
2 学期	9	2節 2次関数の値の変化	2次方程式とその解の意味について理解し、解を求めるための基礎的な知識を身につける。	○	○	○	
	10	3節 2次方程式と2次不等式	2次不等式の解の意味や2次関数のグラフとの関係を理解し、2次不等式を解くための基礎的な知識を身につける。	○	○	○	期末 審査
	11						

3 学期	1 2	2章 集合と命題 5章 データの分析	集合の包含関係、共通部分と和集合、空集合、補集合、ド・モルガンの法則を理解する。 データの特徴や、分布を表す方法を身につける。	○	○		学 年 末 考 査
	1	4章 図形と計量 1節 三角比	鈍角まで拡張した三角比の意義や三角比の表の意味と使い方を理解する。 ($0^\circ \sim 360^\circ$ の三角比もここで扱う) 三角比の相互関係に関心を持ち、図や表を用いて考察し、理解し、基礎的な知識を身につける。	○		○	
	2	2節 三角形への応用	正弦定理・余弦定理の内容を理解し、正弦定理・余弦定理と三角形の決定条件との関連についても考察する。 三角形の決定条件が与えられたときの三角形の残りの要素を求めることができる。	○	○	○	
	3		正弦定理、余弦定理を空間図形の計量に応用できる。 正四面体の体積の求め方を理解している。				

科学と人間生活

教 科	理科	単位数	3	学科・学年	1年
使用教科書	科学と人間生活（啓林館）				
副教材等	サンダイヤル科学と人間生活の学習ノート（啓林館）				

「科学と人間生活」の到達目標は

- (1) 自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。
- (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。

1. 評価の観点の趣旨と方法

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の 観点の 趣旨	<ul style="list-style-type: none"> • 遺伝子のはたらき、視覚、血糖濃度の調節、免疫についての基本的なしくみを理解する。 • 身近な材料であるプラスチックや金属の種類、性質及び用途と資源の再利用について理解する。 • 光を中心とした電磁波の性質とその利用について理解する。 • 身近な自然景観の成り立ちと自然災害について、地域の地質や地形、気候などの特性や地球内部のエネルギーによる変動と関連づけて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 科学技術の発展が今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて理解し、科学技術の発展と人間生活とのかかわりについて科学的に考察し表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 自然と人間生活とのかかわり及び科学技術と人間生活とのかかわりについての学習を踏まえて、課題を設定し探究することで、これからの科学と人間生活とのかかわり方について認識を深めようとする。
評価の 方法	<ul style="list-style-type: none"> • 年5回の定期考査 • 実験レポート 	<ul style="list-style-type: none"> • 年5回の定期考査 • 発表内容 	<ul style="list-style-type: none"> • 授業ノートのまとめ方 • 授業態度、質疑応答 • 発表の取り組み方

2. 評価の規準（及び年間の評定）

内容のまとめ(単元)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
序章 科学技術の発展	①科学技術の発展と、現代社会での科学技術の役割について理解することができる。	①昔と比較して豊かな生活を送ることができるようになったことに対する、科学技術の役割について考えることができる。	①現代社会において、科学技術の発展が生活を便利で豊かにしてきた様子と、その役割を調べようとする。
第1部 生命の科学 第1章 ヒトの生命現象	①ヒトの生命現象にタンパク質が関与していることや、タンパク質が遺伝子の情報をもとにつくられる過程について理解することができる。 ②ヒトの眼の構造や視覚のしくみ、概日リズムや体内時計について理解することができる。 ③ホルモンによる血糖濃度の調節のしくみと、糖尿病について理解することができる。 ④抗体による免疫のしくみと、ワクチン、アレルギーについて理解することができる。	①ヒトの生命現象、タンパク質とDNAを関連づけて考えることができる。 ②眼の構造と視覚の性質について、実験や実体験をもとに考えることができる。 ③血糖濃度とインスリン濃度のグラフを解釈し、それらと糖尿病の関係を科学的に考察することができる。 ④ワクチンの種類について調べ、比較し、表現することができる。 ⑤免疫のしくみとワクチン、アレルギーを関連づけて考えることができる。	①体をつくるタンパク質など、身近なタンパク質について調べようとする。 ②ヒトの視覚の性質や錯視の例などについて調べようとする。 ③光が体内時計やヒトの行動に与える影響について振り返って、日常生活や社会に生かそうとする。 ④血糖とヒトの健康の関係や、生活習慣と糖尿病の関係について調べようとする。
第2部 物質の科学 第1章 材料とその利用	①プラスチックの種類と性質について理解することができる。 ②未知のプラスチックの種類を決定する実験を通して、結果を分析して解釈し、プラスチックの種類を決定する方法がわかる。 ③金属の種類と用途、性質、製造法について理解することができる。 ④セラミックスの種類と特徴について理解することができる。 ⑤循環型社会と3R、資源の再利用の方法について理解することができる。	①プラスチックの種類と製品について調べ、分類し、表現することができる。 ②身のまわりの金属の利用と種類、その製造法について考えることができる。 ③セラミックスの種類と用途について考えることができる。 ④資源の有限性と再利用の重要性について考えることができる。	①プラスチックの種類、性質および用途、特殊な機能をもったプラスチックについて調べようとする。 ②さまざまな金属が、どのような特徴をもち、生活に利用されているか調べようとする。 ③身のまわりの金属の性質やその利用について振り返って、日常生活や社会に生かそうとする。 ④資源の再利用について身近な例を調べようとする。 ⑤資源の再利用について振り返って、日常生活や社会に生かそうとする。

<p>第3部 光や熱の科学 第1章 光の性質とその利用</p>	<p>①光の直進や反射，屈折についてわかる。 ②光の屈折を的確に記録し，屈折率を求めることができる。 ③波の性質や光のスペクトル，回折や干渉のような現象の原理について理解することができる。 ④電磁波の波長による分類と，それぞれの利用について理解することができる。</p>	<p>①光の性質と，レンズのしくみや眼の構造を関連づけて考え，説明することができる。 ②光の性質と色のしくみを，光の波長と関連づけて考えることができる。 ③電磁波の種類と性質を，その利用例と関連づけて考えることができる。</p>	<p>①光の性質がどのように利用されているか調べようとする。 ②光の波としての性質や光の色が，どのような現象として見られるか調べようとする。 ③身のまわりの光の色や性質について振り返って，日常生活や社会に生かそうとする。</p>
<p>第4部 宇宙や地球の科学 第2章 自然景観と自然災害</p>	<p>①太陽エネルギーによって河川の様子が変化し，河川のはたらきによって形成される景観や引き起こされる災害について理解することができる。 ②地殻変動によって景観が変化し，地震などの災害が起こることや，プレートの動きと地震・火山の関係性について理解することができる。 ③火山活動が作り出す景観と火山の噴火，噴出物などによる災害と対策について理解することができる。</p>	<p>①河川のはたらきがつくり出す景観や引き起こす災害を，水の循環や太陽エネルギーと関連づけて考えることができる。 ②地震発生のしくみと，地震によって引き起こされる災害と景観について考えることができる。 ③火山の形と噴火の特徴を，再現実験でさまざまな条件を比較するなどして，関連づけて考えることができる。</p>	<p>①気象災害について身近な例を調べようとする。 ②地殻変動がもたらす影響や災害の様子について，モデル実験を行うなどして調べようとする。 ③地震による災害とその対策について振り返って，日常生活や社会に生かそうとする。 ④火山活動が作り出した景観について，ジオパークなど身近な例を調べようとする。</p>
<p>終章 これからの科学と人間生活</p>	<p>①自然と人間生活とのかかわりおよび科学技術と人間生活とのかかわりについての学習を踏まえて，これからの科学と人間生活とのかかわり方について認識を深める。</p>	<p>①終章までの学習を受けて，課題を設定し探究することで，これからの科学と人間生活とのかかわり方について科学的に考察し，発表することができる。</p>	<p>①学習を通して興味・関心をもったテーマについて，課題研究のテーマ例を活用するなどして，進んで課題研究に取り組もうとする。</p>
<p>1年間の評定は，1学期・2学期・3学期の年間を通じて，知識・技能を重視し総合的に判断して決定します。</p>			

3. 学習の計画と評価の観点

学期	月	学習内容	学習のねらい	評価の観点			審査範囲
				知・技	思・判・表	主	
1 学期	4	科学技術の発展	科学技術の進歩・発展を、通信・医療・交通技術を例にして理解する。	○	○	○	中間審査
	5	第1部 生命の科学 第1章 ヒトの生命現象 A タンパク質と遺伝子	・タンパク質と遺伝子の関係について理解する。	○	○		
	6	B ヒトの視覚と光	・光の情報によって視覚が生じ、体内時計に影響を与えることを理解する。	○	○	○	期末審査
	7	C 血糖濃度の調節	・ホルモンの作用による血糖濃度の調節について理解する。	○		○	
		D 免疫	・抗体による生体防御について理解する。	○	○		
2 学期	8 9	第2部 物質の科学 第1章 材料とその利用 A プラスチック	・プラスチックの種類と性質について理解する。	○	○	○	中間審査
		B 金属	・金属の種類と用途、製造法について理解する。	○	○	○	
		C セラミックス	・セラミックスの種類と原料について理解する。	○			
		D 資源の再利用	・資源の再利用を、プラスチック・金属・ガラスを例にして理解する。	○	○	○	
	10 11 12	第3部 光や熱の科学 第1章 光の性質とその利用 A 光の進み方	・光の進み方、反射、屈折について理解する。	○	○		期末審査
B 光の波としての性質	・光のもつ波の性質について理解する。	○					
C 電磁波とその利用	・電磁波の種類とその利用について理解する。	○		○			
3 学期	1	第4部 宇宙や地球の科学 第2章 自然景観と自然災害 A 河川のはたらきによる景観と災害	・岩石の風化、河川の作り出す景観や河川による災害を理解する。	○	○		期末審査
	2	B 地震による景観と災害	・地殻変動が作り出す景観や地震による災害、プレートの動きについて理解する。	○	○	○	
		C 火山の景観と災害	・火山は火山災害を引き起こす反面、温泉などの恩恵があることについて理解する。	○	○		
	3	終章 これからの科学と人間生活	・第1部から第4部で選択した学習内容を踏まえ、生徒の興味・関心等に応じて、自然や科学技術に関連した課題を設定し考察する。	○	○	○	

体 育

教 科	保健体育	単位数	2	学科・学年	1年
使用教科書	現代高等保健体育 改訂版（大修館）				
副教材等	現代高等保健体育ノート 改訂版（大修館）				

「 体 育 」の到達目標は

- (1) 各運動種目の特性を理解し、技術や戦術、審判法、競技会、記録会の行い方など、総合的な技能、ルールについて理解を深める。また、運動を科学的・理論的にとらえ、自身の動きや、仲間の動きを分析するための知識を身に着ける。体育理論では、現代社会におけるスポーツの意義や必要性を理解し、豊かなスポーツライフを実現するための知識や方法を身につける。
- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、運動の多様性や体力の必要性について理解する。また、一人一人の違いや考えを大切にすることなどの意欲を育て、合理的、計画的な解決に向けた思考力、判断力を高め、生涯にわたって運動に親しむ態度を育てる。
- (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人ひとりの違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康、安全を確保し、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

1. 評価の観点の趣旨と方法

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・各領域における基本的な技能や攻防の仕方、合理的な動き方を身に着け、記録や技に挑戦することができる。 ・簡易化されたルールから正規のルールへと、段階的に変化させ、各種競技の正規ルールを理解して試合を行うことができる。 ・身体の動かし方や用具の操作方法などの具体的な知識と、運動の実践や生涯スポーツにつながる概念や法則などの汎用的な知識を習得している。 ・運動に関する領域と体育理論等との関連を理解し、各領域の特性や魅力を理解し、運動やスポーツが持つ価値や意義を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自他の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考、判断することができる。 ・他者に言葉や文章、動作などを用いて、自身の考えや思いを表現し、コミュニケーションを図ることができる。 ・自己や仲間の課題に対して、合理的、計画的に解決に向けた話し合いを行い、新たな課題の発見に向けた活動ができる。 ・各運動種目における技能の発揮場面において適切な技術を選択し、実践することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育授業の実施にあたり、公正に取り組む、互いに協力する、参画する、自己の責任を果たすことができる。 ・一人ひとりの違いや特徴を理解し、それらを認め合い、高め合っている。 ・意欲的に学習に取り組み、健康安全を確保した運動を実践している。 ・授業の目的、目標に対してそれらを達成しようとしている。 ・周囲と積極的に交流し、課題の解決のための意見交流を行うことができる。 ・準備や片付けに積極的に参加し、集団活動に前向きに取り組んでいる。

評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・知識理解テスト ・演技発表会 ・試合 ・競技会 ・記録会 ・授業プリント、ノート 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業プリント、ノート ・話し合い活動 ・グループ活動 ・質問紙 ・演技発表会 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・グループ活動 ・課題調査 ・意見発表 ・学習態度
-------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2. 評価の規準（及び年間の評定）

内容のまとめ(単元)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A：体づくり運動 ア：体ほぐしの運動 ◆集団行動、準備体操、柔軟体操、補強運動 ◆スポーツテスト	<ul style="list-style-type: none"> ・身体を動かす楽しさや心地よさを味わい、関節や筋肉の動きに着目し、可動域や力強さを高める運動を行うことができる。 ・能率的で安全な集団としての行動の仕方を実践することができる。 ・スポーツテストを通じて、自身の運動能力、身体の成長、課題を実感し、課題の克服に努力することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己や仲間の課題を把握し、合理的、計画的な解決に向けて思考、判断することができる。 ・自己や仲間の考えたことを他者に共有することができる。 ・他者に言葉や文章、動作などを用いて、自身の考えや思いを表現し、伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種運動のポイントや注意点を理解し、集団での活動に配慮しながら運動に親しもうとしている。 ・準備や片付けなどに積極的に参加している。 ・意欲的に学習に取り組み、健康安全を確保した運動を実践している。
B：器械運動 ◆マット運動	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な演技技を習得している。 ・様々な組み合わせの中から、自分に適した演技を構成することができる。 ・技と技の繋がりを意識して演技を構成することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己や仲間の課題を把握し、合理的、計画的な解決に向けて思考、判断することができる。 ・自己の課題を把握し、技の難易度や演技の完成度を高めるための工夫、改善を行う。 ・ICTなどを活用して、技の完成度を確認し、自己の課題を改善するための思考力、判断力を養う。 ・安全に技の練習をするために、協力して技の練習を実施することができる。 ・技の難易度と自身の能力が伴っているか、総合的に判断できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種運動のポイントや注意点を理解し、集団の活動に配慮しながら運動に親しもうとしている。 ・準備や片付けなどに積極的に参加している。 ・体育授業の実施にあたり、自己の責任を果たし、一人ひとりの違いを理解し、それらを認め合おうとしている。 ・意欲的に学習に取り組み、健康安全を確保した運動を実践している。 ・個人の能力に合わせた技の習得や演技構成の工夫を行い、主体的に演技の練習に取り組むことができる。

<p>E：球技 ◆サッカー ア：ゴール型</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・技術や戦術、作戦を理解し、個人やチームの能力の向上を目指している。 ・インフィールドの空間を作り出す動きや、空間を埋める動き方を身に着け、活用することができる。 ・安定したボール操作技術を身に着け、ゲームなどの攻防を楽しむことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己や仲間の課題を把握し、合理的、計画的な解決に向けて思考、判断することができる。 ・他者に言葉や文章、動作などを用いて、自身の考えや思いを表現し、伝えることができる。 ・自己や仲間の課題に対して、合理的、計画的に解決に向けた話し合いを行い、新たな課題の発見に向けた話し合いを実施することができる。 ・ゲームなどを通して、各運動種目の楽しさを味わいながら、個人やチームの課題を把握し、その解決に向けた練習の工夫を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種運動のポイントや注意点を理解し、集団の活動に配慮しながら運動に親しもうとしている。 ・準備や片付けなどに積極的に参加している。 ・体育授業の実施にあたり、自己の責任を果たし、一人ひとりの違いを理解し、それらを認め合おうとしている。 ・意欲的に学習に取り組み、健康安全を確保した運動を実践している。 ・個人やチームの能力に合わせた作戦の設定や協力して相手から得点を奪うための団結力を高めようとしている。
<p>E：球技 ◆バレーボール イ：ネット型</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・技術や戦術、作戦を理解し、個人やチームの能力の向上を目指している。 ・仲間と連携した、拾う、つなぐ、打つという一連の流れの再現性を高める動きを身に着け、活用することができる。 ・安定したボール操作技術を身に着け、ゲームなどの攻防を楽しむことができる。 ・ゲームの企画や運営、審判を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己や仲間の課題を把握し、合理的、計画的な解決に向けて思考、判断することができる。 ・自己や仲間の考えたことを他者に共有することができる。 ・他者に言葉や文章、動作などを用いて、自身の考えや思いを表現し、伝えることができる。 ・自己や仲間の課題に対して、合理的、計画的に解決に向けた話し合いを行い、新たな課題の発見に向けた話し合いを実施することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種運動のポイントや注意点を理解し、集団の活動に配慮しながら運動に親しもうとしている。 ・準備や片付けなどに積極的に参加している。 ・体育授業の実施にあたり、自己の責任を果たし、一人ひとりの違いを理解し、それらを認め合おうとしている。 ・意欲的に学習に取り組み、健康安全を確保した運動を実践している。 ・個人やチームの能力に合わせた作戦の設定や協力して相手から得点を奪うための団結力を高めようとしている。
<p>E：球技 ◆バドミントン イ：ネット型</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・技術や戦術、作戦を理解し、個人やチームの能力の向上を目指している。 ・相手のショットに対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己や仲間の課題を把握し、合理的、計画的な解決に向けて思考、判断することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種運動のポイントや注意点を理解し、集団の活動に配慮しながら運動に親しもうとしている。

	<ul style="list-style-type: none"> したショットを打つという一連の流れの再現性を高める動きを身に着け、活用することができる。 安定したボール操作技術を身に着け、ゲームなどの攻防を楽しむことができる。 ゲームの企画や運営、審判を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己や仲間の考えたことを他者に共有することができる。 他者に言葉や文章、動作などを用いて、自身の考えや思いを表現し、伝えることができる。 自己や仲間の課題に対して、合理的、計画的に解決に向けた話し合いを行い、新たな課題の発見に向けた話し合いを実施することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 準備や片付けなどに積極的に参加している。 体育授業の実施にあたり、自己の責任を果たし、一人ひとりの違いを理解し、それらを認め合おうとしている。 意欲的に学習に取り組み、健康安全を確保した運動を実践している。 個人やチームの能力に合わせた作戦の設定や協力して相手から得点を奪うための団結力を高めようとしている。
E：球技 ◆バスケットボール ア：ゴール型	<ul style="list-style-type: none"> インフィールドの空間を作り出す動きや、空間を埋める動き方を身に着け、活用することができる。 安定したボール操作技術を身に着け、ゲームなどの攻防を楽しむことができる。 ゲームの企画や運営、審判を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己や仲間の課題を把握し、合理的、計画的な解決に向けて思考、判断することができる。 自己や仲間の考えたことを他者に共有することができる。 他者に言葉や文章、動作などを用いて、自身の考えや思いを表現し、伝えることができる。 自己や仲間の課題に対して、合理的、計画的な解決に向けた話し合いを行い、新たな課題の発見に向けた話し合いを実施することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種運動のポイントや注意点を理解し、集団の活動に配慮しながら運動に親しもうとしている。 準備や片付けなどに積極的に参加している。 体育授業の実施にあたり、自己の責任を果たし、一人ひとりの違いを理解し、それらを認め合おうとしている。 意欲的に学習に取り組み、健康安全を確保した運動を実践している。 個人やチームの能力に合わせた作戦の設定や協力して相手から得点を奪うための団結力を高めようとしている。
E：球技 ◆ソフトボール ウ：ベースボール型	<ul style="list-style-type: none"> 身体の軸を安定させたバット操作や捕球場所への最短距離での移動と一連の動きでボールを投げることができる。 打撃や守備の状況に応じた類の回り方ができる。 ゲームの企画や運営、審判を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己や仲間の課題を把握し、合理的、計画的な解決に向けて思考、判断することができる。 自己や仲間の考えたことを他者に共有することができる。 他者に言葉や文章、動作などを用いて、自身の考えや思いを表現し、伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種運動のポイントや注意点を理解し、集団の活動に配慮しながら運動に親しもうとしている。 準備や片付けなどに積極的に参加している。 体育授業の実施にあたり、自己の責任を果たし、一人ひとりの違いを理解し、それらを認め合おうとしている。 意欲的に学習に取り組

		<ul style="list-style-type: none"> 自己や仲間の課題に対して、合理的、計画的な解決に向けた話し合いを行い、新たな課題の発見に向けた話し合いを実施することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> み、健康安全を確保した運動を実践している。 個人やチームの能力に合わせた作戦の設定や協力して相手から得点を奪うための団結力を高めようとしている。
<p>H：体育理論 第1章 スポーツの発祥と発展</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆スポーツの始まりと変遷 ◆文化としてのスポーツ ◆オリンピック・パラリンピックの意義 ◆スポーツが経済に及ぼす効果 ◆スポーツの高潔さとドーピング ◆スポーツと環境 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツの起源に関する調べ学習を通してスポーツの発祥と成立について理解する。 近代スポーツと国際スポーツの違いやそれらの関わりについて理解する。 オリンピズムとオリンピックムーブメントについてその意義について理解する。 オリンピックの歴史的背景を学び、過去と現在のオリンピック開催の意義について理解する。 東京オリンピックの実施に向けたオリンピックムーブメントの実例や、開催後の国際的变化について理解する。 スポーツが経済に与える影響や経済がスポーツに与える影響について理解する。 経済がどのようにスポーツを支えているのか「する・見る・支える」等様々な視点からその関係性について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツの文化的な一面について学び、今日のスポーツ文化がどのように社会に影響を与えているか、調査や発表をすることができる。 オリンピック、パラリンピックの歴史的背景や社会的背景を理解し、これからのオリンピック、パラリンピックの在り方について意見を交流することができる。 スポーツへの多様な関わりの方について理解し、将来的にどのように健康を保持増進し、運動に親しんでいくか、展望を持つことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に学習に取り組み、体育、スポーツの歴史的背景や社会的背景を理解しようとしている。 意欲的に学習に取り組み、オリンピック、パラリンピックの歴史的背景や社会的背景を理解しようとしている。 新体力テストの結果を受けて自身の課題や今後の目標を立てることができる。 意欲的に学習に取り組み、スポーツの経済的効果やそれを支えるスポーツ産業について理解しようとしている。 「する・見る・支える」等の様々なスポーツへの向き合い方を理解しようとしている。
<ul style="list-style-type: none"> ●体育授業に際しては、知識・技能に関する評価観点を重視して評価を行っていく。また、安全配慮に関する姿勢やルール等を守り、他者と共にスポーツを楽しもうとするなどの行動面に関しても評価の対象とする。 ●知識・技能に関しては、年間を通じてスキルテストや各種演技、実演を通して技能の評価を行っていく。知識面に関しては小テストなどを通して評価する。 ●思考・判断・表現に関しては、各単元で他者との交流やチーム単位の活動を通して意見交流などを行い、作戦、戦術、練習方法などを通して評価する。 ●主体的に学習に取り組む態度については、準備や片付け、学習に取り組む様子などを通して、総合的に判断し評価する。 			

3. 学習の計画と評価の観点

学期	月	学習内容	学習のねらい	評価の観点			調査範囲
				知・技	思・判・表	主	
1 学期	4月	<ul style="list-style-type: none"> ◆R8年度シラバス ◆R8年度授業計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション。 ・授業の実施方法について確認する。 ・授業実施にあたり、用具や施設の利用方法について確認する。 				○
		A：体づくり運動 <ul style="list-style-type: none"> ◆体づくり運動 ア：体ほぐしの運動 ◆集団行動、準備体操、柔軟体操、補強運動 ◆スポーツテスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体を動かす楽しさや心地よさを味わい健康の保持増進や体力の向上を目指した運動を実施する。 ・仲間との活動を通して、交流を深める。 ・関節や筋肉の動きに着目し、可動域や力強さを高める運動を実施する。 ・スポーツテストを通して、自身の運動能力、身体の成長を確認、実感する。 ・能率的で安全な集団としての行動の仕方を身に着ける。 		○	○	
	5月	E：球技 <ul style="list-style-type: none"> ◆バレーボール イ：ネット型 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術や戦術、作戦を理解し、個人やチームの能力の向上を目指す。 ・ネット型競技では、仲間と連携した、拾う、つなぐ、打つという一連の流れの再現性を高める動きを身に着ける。 ・安定したボール操作技術を身に着け、ゲームなどの攻防を楽しむ。 ・ゲームなどを通して、その種目の楽しさを味わいながら、個人やチームの課題を把握し、その解決に向けた練習の工夫を行う。 ・個人やチームの能力に合わせた作戦の設定や協力して相手から得点を奪うための団結力を養う。 ・ゲームの企画や運営、審判を行う。 	○	○	○	
	6月	E：球技 <ul style="list-style-type: none"> ◆ソフトボール ウ：ベースボール型 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術や戦術、作戦を理解し、個人やチームの能力の向上を目指す。 ・ベースボール型競技では、状況に応じたバット操作と守備、安定したボール操作をしながら攻防を楽しむ。 ・ゲームなどを通して、その種目の楽しさを味わいながら、個人やチームの課題を把握し、その解決に向けた練習の工夫を行う。 ・個人やチームの能力に合わせた作戦の設定や協力して相手から得点を奪うための団結力を養う。 ・ゲームの企画や運営、審判を行う。 	○	○	○	
	7月						

2 学 期	8 月	H：体育理論 第1章 スポーツの発祥と発展 ◆スポーツの始まりと変遷 ◆文化としてのスポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの起源に関する調べ学習を通してスポーツの発祥と成立の歴史について理解する。 ・近代スポーツと国際スポーツの違いやそれらの関わりについて理解する。 ・スポーツの文化的な一面について学び、今日のスポーツ文化がどのように社会に影響を与えているか調査、発表する。 	○	○	○
	9 月	E：球技 ◆サッカー ア：ゴール型	<ul style="list-style-type: none"> ・技術や戦術、作戦を理解し、個人やチームの能力の向上を目指す。 ・ゴール型競技では、インフィールドの空間を作り出す動きや、空間を埋める動き方を身に着ける。 ・ネット型競技では、仲間と連携した、捨う、つなぐ、打つという一連の流れの再現性を高める動きを身に着ける。 ・安定したボール操作技術を身に着け、ゲームなどの攻防を楽しむ。 ・ゲームなどを通して、その種目の楽しさを味わいながら、個人やチームの課題を把握し、その解決に向けた練習の工夫を行う。 ・個人やチームの能力に合わせた作戦の設定や協力して相手から得点を奪うための団結力を養う。 ・ゲームの企画や運営、審判を行う。 	○	○	○
	10 月	<女子> ◆バドミントン イ：ネット型	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題を把握し、技の難易度や演技の完成度を高めるための工夫、改善を行う。 ・ICTなどを活用して、技の完成度を確認し、自己の課題を理解、改善するための思考力、判断力を養う。 ・安全に技の練習をするために、協力して技の練習を実施し難易度と能力が伴っているか総合的に判断できるようにする。 ・様々な組み合わせの中から、自分に適した演技を構成することができる。 	○	○	○
	11 月	B：器械運動 ◆マット運動	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題を把握し、技の難易度や演技の完成度を高めるための工夫、改善を行う。 ・ICTなどを活用して、技の完成度を確認し、自己の課題を理解、改善するための思考力、判断力を養う。 ・安全に技の練習をするために、協力して技の練習を実施し難易度と能力が伴っているか総合的に判断できるようにする。 ・様々な組み合わせの中から、自分に適した演技を構成することができる。 	○	○	○
3 学 期	12 月	H：体育理論 第1章 スポーツの発祥と発展 ◆オリンピックとパラリンピックの意義 ◆スポーツが経済に及ぼす効果	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピズムとオリンピックムーブメントについてその意義について理解する。 ・オリンピックがどのように変遷しながら現在の形になったのか、歴史的背景を学び、過去と現在のオリンピック開催の意義について理解する。 ・東京オリンピックの実施に向けたオリンピックムーブメントの実例や、開催後の国際的変化について学ぶ。 ・スポーツが経済に与える影響や経済がスポーツに与える影響について理解する。 ・経済がどのようにスポーツを支えているのか「する・見る・支える」等様々な視点からその関係性について理解する。 	○	○	○

	1月	E：球技 ◆バスケットボール ア：ゴール型	<ul style="list-style-type: none"> ・技術や戦術、作戦を理解し、個人やチームの能力の向上を目指す。 ・ゴール型競技では、インフィールドの空間を作り出す動きや、空間を埋める動き方を身に着ける。 ・安定したボール操作技術を身に着け、ゲームなどの攻防を楽しむ。 ・ゲームなどを通して、その種目の楽しさを味わいながら、個人やチームの課題を把握し、その解決に向けた練習の工夫を行う。 ・個人やチームの能力に合わせた作戦の設定や協力して相手から得点を奪うための団結力を養う。 ・ゲームの企画や運営、審判を行う。 	○	○	○	
	2月 ・ 3月	H：体育理論 第1章 スポーツの発祥と発展 ◆スポーツの高潔さとドーピング ◆スポーツと環境	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツが持つ文化的、国際的な価値や役割について理解し、その高潔性を破壊する可能性のある様々な問題に対して、意見を交流することができるようになる。 ・オリンピックや国際大会における開催都市の環境問題について理解し、対策方法を考えることができる。 ・「環境」をオリンピックムーブメントの1つに位置づけし、スポーツと環境の調和を求めた行動ができる。 	○	○	○	

保 健

教 科	保健体育	単位数	1	学科・学年	1年
使用教科書	現代高等保健体育 改訂版（大修館）				
副教材等	現代高等保健体育ノート 改訂版（大修館）				

「 保 健 」の到達目標は

- (1) 健康・安全についての基礎的な事項を理解し、個人生活や社会生活が抱えている身近な健康問題について知識を深める。また、心肺蘇生法などの技術や健康的な食生活など、健康の保持増進に向けた様々な取り組みや対策について理解を深め、実生活に活かす実践力を高める。
- (2) 個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関する健康課題について理解を深め、グループ討議などを通して様々な対策や解決策に関する意見を交流する。また、日常生活において適切な意志決定、行動選択を行うための思考力、判断力、表現力を養う。
- (3) 健康や安全に関心を持ち、健康で安全な生活を実践するための資質や能力を身に着ける。また意欲的に学習に取り組み、新たな発見や気づきが得られるように前向きに授業に取り組む態度を養う。

1. 評価の観点の趣旨と方法

	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・健康・安全の意義を理解するとともに、現代社会と健康、安全な社会生活について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身につけている。 ・心肺蘇生法及び BLS の実施手順を理解し、実践することができる。 ・保健授業で扱う様々な保健的な技術を理解し、実践することができる。 ・授業内容を理解し、小テストや考査等で成果をあげることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関する意志決定、行動選択、課題の解決を目指した思考力、判断力を身に着けている。 ・グループ学習などを通して他者と意見を交流し、新しい発見や課題解決のためのコミュニケーション能力を身に着けている。 ・自身の考えを言語表現だけではなく、ICT 機器などを利用して適切に表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関心を持ち、健康で安全な生活を実践するため、意欲的に学習に取り組んでいる。 ・授業に前向きに取り組み、課題や授業内容について積極的に学ぶ姿勢がある。 ・現代社会における健康課題について様々な視点から判断し、授業内容と関連付けて学習に取り組むことができる。 ・意見交流で積極的に発言している。 ・応急手当や心肺蘇生法の実施方法について理解し、積極的に実習に臨んでいる。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業観察 ・提出物 ・ノート確認 ・実技、実演 ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業観察 ・提出物 ・ノート確認 ・グループ学習 ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業観察 ・提出物 ・ノート確認 ・グループ学習 ・総括評価

2. 評価の規準（及び年間の評定）

内容のまとめ(単元)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>第1章 ＜現代社会と健康＞</p> <p>◆ア：健康の考え方 1：健康の考え方と成り立ち 2：私たちの健康のすがた</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国民の健康課題について、各種の指標や疾病構造の変化を通して理解している。 ・健康に関わる様々な要因や個人や社会の関わりについて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会と健康について課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し、判断するとともに、それらを表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関心を持ち、健康で安全な生活を実践するため、意欲的に学習に取り組んでいる。 ・授業に前向きに取り組み、課題や授業内容について積極的に学ぶ姿勢がある。 ・現代社会における健康課題について様々な視点から判断し、授業内容と関連付けて学習に取り組むことができる。 ・意見交流で積極的に発言している。
<p>第1章 ＜現代社会と健康＞</p> <p>◆イ：生活習慣病などの予防と回復 3：生活習慣病の予防と回復 4：がんの原因と予防 5：がんの治療と回復 6：運動と健康 7：食事と健康 8：休養・睡眠と健康</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病の予防と回復に向けた個人の取り組みや健康診断、がん検診の普及などの社会的取り組みの大切さについて理解している。 ・がんの種類や治療方法を理解している。 ・がんとの付き合い方を理解できた。 ・運動、食事、睡眠が生活習慣病予防にどのように関わっているか理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会と健康について課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し、判断するとともに、それらを表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践するため、意欲的に学習に取り組んでいる。 ・授業に前向きに取り組み、課題や授業内容について積極的に学ぶ姿勢がある。 ・現代社会における健康課題について様々な視点から判断し、授業内容と関連付けて学習に取り組むことができる。 ・意見交流で積極的に発言している。

<p>第 1 章 〈現代社会と健康〉</p> <p>◆ウ：喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 9：喫煙と健康 10：飲酒と健康 11：薬物乱用と健康</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 喫煙や飲酒が身体に及ぼす害について理解し、周囲の人々や胎児など様々な視点から物事をとらえる力を身に着けている。 • 薬物が及ぼす健康影響や社会的な影響について学び、それらを防止するための社会的な取り組みや自分の身体を大切にする気持ちの大切さについて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> • 現代社会と健康について課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し、判断するとともに、それらを表現することができる。 • 喫煙や飲酒、薬物の誘いに対する適切な判断力を身に着けている。 • 健康被害の防止に向けた対策方法などについて意見を交流できる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践するため、意欲的に学習に取り組んでいる。 • 授業に前向きに取り組み、課題や授業内容について積極的に学ぶ姿勢がある。 • 現代社会における健康課題について様々な視点から判断し、授業内容と関連付けて学習に取り組むことができる。 • 意見交流で積極的に発言している。
<p>第 1 章 〈現代社会と健康〉</p> <p>◆エ：精神疾患の予防と回復 12：精神疾患の特徴 13：精神疾患の予防 14：精神疾患からの回復</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 近年増えている精神疾患に関する正しい知識を身に着け、様々な治療方法や病気との向き合い方について理解している。 • 精神疾患の予防と回復には適切な食事や運動、休養、睡眠などの生活習慣が大きく関係していることを理解している。 • 精神疾患患者の増加の背景には社会環境の変化など様々な要因があることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> • 現代社会と健康について課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し、判断するとともに、それらを表現することができる。 • 精神疾患に陥る原因や良好な人間関係、社会環境の整備のために何が必要か意見を交流することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践するため、意欲的に学習に取り組んでいる。 • 授業に前向きに取り組み、課題や授業内容について積極的に学ぶ姿勢がある。 • 現代社会における健康課題について多角的に判断し、授業内容と関連付けようとすることができる。 • 意見交流で積極的に発言している。

<p>第1章 〈現代社会と健康〉</p> <p>◆オ：現代の感染症とその予防 15：現代の感染症 16：感染症の予防 17：性感染症・エイズとその予防</p>	<ul style="list-style-type: none"> 現代の感染症の特徴やその発生原因について理解する。 感染症に対する適切な対策や予防方法について理解している。 予防接種や検疫などの感染症に対する社会的な取り組みについて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代社会と健康について課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し、判断するとともに、それらを表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関心を持ち、健康で安全な生活を実践するため、意欲的に学習に取り組んでいる。 授業に前向きに取り組み、課題や授業内容について積極的に学ぶ姿勢がある。 現代社会における健康課題について様々な視点から判断し、授業内容と関連付けて学習に取り組むことができる。
<p>第1章 〈現代社会と健康〉</p> <p>◆カ：意思決定・行動選択 18：健康に関する意思決定・行動選択 19：健康に関する環境づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ヘルスプロモーションの考え方について理解し、健康の保持増進のための適切な意思決定、行動選択について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 事例を参考に、自他の健康の保持増進のための意思決定、行動選択の方法について意見を交流することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践するため、意欲的に学習に取り組んでいる。 授業に前向きに取り組み、課題や授業内容について積極的に学ぶ姿勢がある。 現代社会における健康課題について多角的に判断し、授業内容と関連付けようとすることができる。 意見交流で積極的に発言している。
<p>第2章 〈安全な社会生活〉</p> <p>◆ア：安全な社会づくり 1：事故の現状と発生要因 2：安全な社会の形成 3：交通における安全</p>	<ul style="list-style-type: none"> 事故の現状とその発生原因について理解している。 安全な社会の形成のための様々な法的整備や環境整備について理解している。 交通事故の防止のための個人の適切な行動や補償を始めとする法的責任について理解し、自他の生命を尊重するための正しい考え方を身に着けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現することができる。 交通事故の発生原因について、事例を参考に、グループ活動等で意見交流を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践するため、意欲的に学習に取り組んでいる。 授業に前向きに取り組み、課題や授業内容について積極的に学ぶ姿勢がある。 現代社会における健康課題について様々な視点から判断し、授業内容と関連付けて学習に取り組むことができる。

			<ul style="list-style-type: none"> グループ活動に積極的に取り組み、意見を交流している。
第2章 <安全な社会生活> ◆イ：応急手当 4：応急手当の意義とその基本 5：日常的な応急手当 6：心肺蘇生法	<ul style="list-style-type: none"> 自他の生命や身体を守り、不慮の事故災害に対応するための救急医療体制などについて理解している。 日常的な応急手当の方法や意義について理解している。 心肺蘇生法の実施手順やAEDの操作方法、胸骨圧迫などの行い方を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現すること。 様々な状況に応じて適切な応急手当、心肺蘇生法の実施方法について意見を交流し、協力して実習に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関心をもち、自ら健康で安全な生活を実践するため、意欲的に学習に取り組んでいる。 授業に前向きに取り組み、課題や授業内容について積極的に学ぶ姿勢がある。 意見交流で積極的に発言している。 応急手当や心肺蘇生法の実施方法について理解し、積極的に実習に臨んでいる。
<p>●保健授業に際しては、定期考査を始めとする知識を評価する機会及び心肺蘇生法等の実技、実演等の技能を評価する機会を重視して評価する。また、問題解決型の授業の取り組みの様子について、意見発表の機会や学習プリントへの記載内容についても評価の対象とする。</p> <p>●知識・技能に関しては、年間4回の定期考査と小テスト、応急手当に関する実技などを加味し、総合的に判断し評価する。</p> <p>●思考力・判断力・表現力に関しては、問題や演習、グループ学習などの活動を通して他者とのコミュニケーションを図り、新たな発見や課題解決の方法などの気づきについて、ノートやプリント等の文章表現や発表の様子を加味し、総合的に判断し評価する。</p> <p>●主体的に学習に取り組む態度に関しては、授業中の取り組みの様子や提出物、出席、グループ学習の様子、問題演習の取り組み姿勢などを加味し、総合的に判断し評価する。</p>			

3. 学習の計画と評価の観点

学期	月	学習内容	学習のねらい	評価の観点			考査範囲
				知・技	思・判・表	主	
1学期	4月	◆保健の授業について(まえがき)	<ul style="list-style-type: none"> 保健学習の意義と学習の見通しをもたせる。 			○	1学期期末
		第1章<現代社会と健康> ◆1：健康の考え方と成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> 健康に関して様々な考え方があり、それらが時代によってどのように移り変わってきたのか理解する。 健康の成立のためには様々な要因が大きく関連していることを理解する。 	○	○	○	
		◆2：私たちの健康のすがた	<ul style="list-style-type: none"> 健康指標や疾病構造の変化から日本の健康課題について把握し、時代や流行による様々な影響について理解する。 健康水準や疾病構造の変化には社会の状況が大きくかかわっていることを理解する。 	○	○	○	

2 学 期	5 月	◆3：生活習慣病の予防と回復	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病のリスク軽減や予防のために必要な個人の取り組みについて理解する。 生活習慣病の予防や回復に必要な社会の取り組みについて理解する。 	○	○	○	2 学 期 中 間
		◆4：がんの原因と予防	<ul style="list-style-type: none"> がんには様々な種類があることやがんの発生原因と危険性について理解する。 	○		○	
	6 月	◆5：がんの治療と回復	<ul style="list-style-type: none"> がんの予防や回復に向けた最新の治療法や予防法について理解を深め、将来に活かすことができる知識を身に着ける。 	○		○	
		◆6：運動と健康	<ul style="list-style-type: none"> 運動と健康の関係について理解する。 運動の継続的な実践に必要な取り組みについて身体活動の強度や量と関連させて理解する。 	○	○	○	
		◆7：食事と健康	<ul style="list-style-type: none"> 食事と健康の関係について栄養素の役割や食生活指針と関連させて理解を深める。 健康的な食生活の実践に必要な個人および社会の取り組みについて理解する。 	○	○	○	
		◇定期考査（1学期期末考査）	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を振り返り、知識の定着を確認する。 	○	○		
	7 ・ 8 月	◆8：休養・睡眠と健康	<ul style="list-style-type: none"> 休養・睡眠と健康の関係について日々の生活と関連させた健康影響などを題材に理解を深める。 適切な休養・睡眠の確保に必要な個人及び社会の取り組みについて、調べ学習などを用いて理解を深める。 	○	○	○	
		◆9：喫煙と健康	<ul style="list-style-type: none"> 喫煙による健康影響について、煙草に含まれる有害物質やそれらの影響について正しく理解する。 喫煙による健康被害の防止や社会環境保持のための取り組みについて理解を深める。 	○		○	
		◆10：飲酒と健康	<ul style="list-style-type: none"> 飲酒による健康影響について、過剰な飲酒行為による健康被害の実例を用いて理解を深める。 飲酒による健康被害の防止に向けた社会的な取り組みについて理解する。 	○		○	
	9 月	◆11：薬物乱用と健康	<ul style="list-style-type: none"> 薬物乱用による健康被害及び社会への影響について、事例を含めながら理解を深める。 薬物乱用の防止に向けた取り組みや様々な法律について理解を深める。 	○		○	
◆12：精神疾患の特徴		<ul style="list-style-type: none"> 様々な精神疾患の特徴や症状について理解する。 精神疾患の発症原因や回復に向けた様々な方法、対策などを理解する。 	○		○		
◆13：精神疾患の予防		<ul style="list-style-type: none"> 精神疾患の予防や早期発見、早期治療、適切な支援の方法について理解する。 	○	○	○		
◇定期考査（2学期中間考査）		<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を振り返り、知識の定着を確認する。 	○	○			
10 月	◆14：精神疾患からの回復	<ul style="list-style-type: none"> 心の健康社会の実現を目指した取り組みの重要性について理解する。 	○		○	2 学 期 期 末	
	◆15：現代の感染症	<ul style="list-style-type: none"> 感染症の発生や流行には、自然環境や社会環境が影響を及ぼすことを理解する。 新興感染症の発生原因と流行の背景や、再興感染症の発生や流行の現状について正しく理解する。 	○		○		

美術 I

教 科	芸 術	単位数	2	学科・学年	1年
使用教科書	高校生の美術1（日本文教出版）				
副教材等	スケッチブック 発泡スチロール ジャバラ式絵本 等				

「美術 I」の到達目標は

- (1) 対象や事象を捉える造形的（客観的）・感情的（主観的）な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

1. 評価の観点の趣旨と方法

	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考えながら取り組んでいる。 ・主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。 ・題材ごとの目標を理解し、その達成のため主体的に取り組んでいる。 ・他者と助け合いながら、お互いのよさを認め合おうとしている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の内容（技術面） ・発想を表現するための技術および創意工夫 ・授業中の行動 ・知識テストの点数 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の内容（発想面） ・発想そのものと、その達成のためのアイデアおよび創意工夫 ・授業中の発言 ・ワークシートの内容 ・レポートの記述 ・作品鑑賞の内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業準備・片付けの状況 ・授業中の発言 ・授業中の行動 ・レポートの記述 ・課題の提出状況

2. 評価の規準（及び年間の評定）

内容のまとめ(単元)	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>表現「絵画」 「デッサンで自己紹介」 自分の好きな物や事を鉛筆デッサンし、それを基に自己紹介する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 鉛筆やネリ消しゴム、画用紙など、描画用具の適切な使用方法を理解している。 設定した主題、または好きな物や事を表現する、適切な技法を選択している。 自己紹介では「好き（デッサン）」を通して、他者に自分が伝わるよう、話の「組み立て」「声の大きさや抑揚」など工夫が凝らされている。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な角度から自分を見つめ、現在の好きな物や事を捉える。またその「好き」な物や事について感じたり考えたりしていること等を基に、主題を生成し、話すことをまとめ、他者に伝えるための構想を練っている。 設定した主題が他者に伝わるか意識しながら、制作および自己紹介の計画を練っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分に真摯に向き合い、対話しながら主題を生成しようとしている。 主題を表現する、適切な技法を獲得しようと、研究・工夫を凝らしている。 主体的な作品制作や自己紹介への取り組みをし、他者との相互理解を図ろうとしている。
<p>表現「デザイン」 「ロゴデザイン」 高山工業高校のロゴを創ろう</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中のロゴの役割と目的、コンセプトを表す形と色の造形的特徴や機能を理解している。 企業や団体、または個人のロゴにおける機能について理解している。 色や形の特性を知り、ロゴに使用する色と配色について理解している。 また所属高校を理解し、その的確な表現と、イメージアップを図ることができるロゴ制作のための知識を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 高山工業高校を見つめなおし、その特徴を複数挙げる事ができている。 当校における事実やイメージを的確に表現する形体や、色などの構成要素について考え、その実現のための構想を練っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 企業や団体、または個人など既存のロゴを調査し、そこから学び、構想を練りながら創造的な表現に向け、主体的に取り組もうとしている。
<p>表現「彫刻・絵画」 「夏のかたち」 夏の経験を、発泡スチロールのモデリングで表現する</p>	<ul style="list-style-type: none"> 発泡スチロール・ティッシュペーパーなどの材料、絵の具などの画材における物質的な知識や社会的な意味を理解し、それらを生かしながら創作に取り組んでいる。 カッターや紙やすり、また絵の具や筆など道具・画材の特性を理解し、それを生かし工夫を凝らしながら使用している。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏の経験を基に主題やアイデアを生成している。 主題やアイデアを表現するための各材料、画材の生かし方はさることながら、各材料、画材を生かすための主題生成が意識的で練られている。 	<ul style="list-style-type: none"> 材料・画材における物質的な知識や、社会的な意味を理解し、それらを生かした主題アイデアを主体的に生成しようとしている。 各材料、画材を生かす主題の生成に、主体的・意識的に取り組もうとしている。

鑑賞 「地元の文化・芸術を味わう」 「飾り物」を鑑賞・制作し、相互鑑賞および交流にて理解を深めよう	<ul style="list-style-type: none"> 扱う「お題(干支)」についての理解を深め、その表現に工夫を凝らしている。 扱う「材料」についての理解を深め、それを活かしている。 飾り物の作法について理解を深め、それに従いつつも創造的な表現がなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品の面白さやよさ、美しさについて感受し、地域の伝統的な表現についての価値を感じ取っている。 他者の表現について、創造的な感性を働かせ、そのよさを味わっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「飾り物」を主体的に鑑賞し、伝統的な地元の文化・行事の存在を知る。またその表現方法のよさや面白さなどを感じ取りながら、 他者との交流を深めながら、より地元文化について理解を深めようとしている。
表現「絵画」 「絵本を作ろう」	<ul style="list-style-type: none"> 漫画や絵巻物を鑑賞し、ストーリーや作画構成の基本を学び取っている。 「夏のかたち」で学んだ創作の視座を生かしながら、ストーリーを表現する適切な道具・画材の使用法が意識的で練られている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校で起こった出来事から、印象的な場面を切り取っている。 作画構成の基本を生かしたストーリーを創作している。 	<ul style="list-style-type: none"> 互いに作品を鑑賞し、交流し深く味わいながら、自分がどう感じたか言葉で表し、解釈をさらに深めようとしている。

1年間の評価は、1学期・2学期・3学期の年間を通じて、提出作品と授業態度などの取り組み全般を、知識・技能、思考・判断・表現及び主体的に学習に取り組む態度の評価観点で計り、総合的に判断して決定します。

3. 学習の計画と評価の観点

学期	月	学習内容	学習のねらい	評価の観点			審査範囲
				知・技	思・判・表	主	
1 学期	4	表現「絵画」 「デッサンで自己紹介」 興味がある事物を鉛筆デッサンし、それを基に自己紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> 現在興味がある事物を鉛筆でデッサンしたり、紹介したりすることで、それに興味を抱いている自分への理解を深める。 自分の興味がある事物を基に、主題を設定する。 描画用具の特性を活かし、主題を表現する適切な技法を選択している。 	○	○	○	
	5			○	○	○	
	6	表現「デザイン」 「ロゴデザイン」 高山工業高校のロゴを創ろう	<ul style="list-style-type: none"> 既存のロゴを調査し、目的と形、色について考察を深め、ロゴの役割とその特徴、生活とのかかわりを理解する。 高山工業高校を客観的に見つめなおし、高山工業高校らしさの表現方法について考える。 色や形の特性を知り、ロゴに使用する配色について理解する。 ステンシル技法を学び、ロゴ表現の一助として適切に使いこなす。 他者作品を鑑賞し深く味わい、互いに意見交換しながらロゴの面白さを味わう。 	○	○	○	

2 学 期	7	表現「絵画・彫刻」	<ul style="list-style-type: none"> ・発泡スチロール・ティッシュペーパーなどの材料、絵の具などの画材における物質的な知識や、社会的な意味を理解する。 ・上記の知識や意味を生かした主題アイデアを生成する。 ・カッターや紙やすり、筆など道具の特性を理解し、工夫を凝らしながら使用する。 ・他者作品を鑑賞し深く味わい、独自の視点で読み解き、それを言葉で表す。 ・互いに読み解く視点の違いを認めながら、自分の解釈をさらに深める。 	○	○		
	8	「夏のかたち」		○	○	○	
	9	夏の経験を、発泡スチロールのモデリングで表現する		○	○		
	10			○	○		
	11			○	○		
3 学 期	12	鑑賞 「地元の文化・芸術を味わう」	<ul style="list-style-type: none"> ・高山の伝統的な行事「飾り物（かざりもの）」を鑑賞し、そのよさや面白さを感じ取るとともに地元の文化について理解を深める。 ・材料（文房具）を理解する。 ・飾り物の中の「見立てもの」作品を鑑賞し、その作法を理解する。 ・上記作法を基に創造的に表現する。 ・互いに作品を鑑賞し、飾り物や地元文化・行事、ひいては日本文化についてより深く興味関心もつ。 	○			○
	1	表現「絵画」		○	○	○	
	2	「絵本を作ろう」		○	○	○	
	3			○	○		

英語コミュニケーションⅠ

教科	外国語（英語）	単位数	3	学科・学年	1年
使用教科書	All Aboard! English Communication I [Revised]（東京書籍）				
副教材等	All Aboard! English Communication I [Revised] ブリッジワークブック（東京書籍） 英単語VALUE1000（数研出版）				

「英語コミュニケーションⅠ」の到達目標は

日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、

- (1) 必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。
- (2) 必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。
- (3) 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。
- (4) 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。
- (5) 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。

1. 評価の観点の趣旨と方法

	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	<ol style="list-style-type: none"> ① 日常的・社会的な話題について聞き取ったり、読み取ったりするため、また相手に伝えるための語句・文法を理解している。 ② 日常的・社会的な話題について聞き取ったり読み取ったりすることができる。 ③ 日常的・社会的な話題について情報や考え、気持ちなどを話したり書いたりして伝えることができる。 ④ 日常的・社会的な話題について、話して伝え合うことができる。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 自分の考えを発表するため、手紙に書くため、また、相手と意見交換するために日常的・社会的な話題について話し手・書き手の意図を把握している。 ② 自分の考えを発表するため、手紙に書くため、また、相手と意見交換するために日常的・社会的な話題について話したり、書いたりして伝えている。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 自分の考えを発表するため、手紙に書くため、また、相手と意見交換するために日常的・社会的な話題について話し手・書き手の意図を把握しようとしている。 ② 自分の考えを発表するため、手紙に書くため、また、相手と意見交換するために日常的・社会的な話題について話したり、書いたりして伝えようとしている。
評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> ① 授業中の音読・言語活動への取り組み状況を観察する。 ② 本文の内容について読んだり、聞いたりしたことの理解度を量る定期考査や小テストを実施する。 ③ 語句や文法事項及び表現の理解度を量る筆記および口頭によるテストを実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 授業中の音読・言語活動を教員または生徒同士が評価する。 ② 本文の内容について理解しているか、また、自分の考えを英語で表現できるかを量る定期考査や口頭テストを実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 授業中の音読・言語活動を教員または生徒同士が評価する。 ② 課題の内容や提出状況を評価する。

2. 評価の規準（及び年間の評定）

内容のまとめ(単元)	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>Warm-Up 1~3 アルファベット 教室で使う表現 辞書の使い方／疑問詞</p>	<p>[知識]アルファベット・疑問詞・辞書の使い方について、理解している。クラスルームイングリッシュについて使用場面や使い方を理解している。 [技能]アルファベットを正しく書くことができる。クラスルームイングリッシュを適切に使うことができる。辞書を適切に使うことができる。</p>	<p>教室で使う表現について、その使い方や使う場面などを正しく認識し、適切に使っている。</p>	<p>教室で使う表現について、その使い方や使う場面などを正しく認識し、適切に使おうとしている。</p>
<p>Pre-Lesson 1 My Name Is Ito Neko オレの名前は伊藤ネコだ Pre-Lesson 2 I Like Junk Food! オレはジャンクフードが好きだ！ Communication 1 自己紹介 英文のしくみ 1</p>	<p>[知識] be 動詞・一般動詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。自己紹介の仕方を理解している。 [技能] 自分の名前・性格・特徴・日常の行動や食べ物の好みなどを、be 動詞・一般動詞を用いて、相手に伝える技能を身につけている。ここまで学習したことをもとに、自己紹介というテーマでメモを作成し、相手とコミュニケーションできる。</p>	<p>自分の名前・性格・特徴など、また、自分の日常の行動や食べ物の好みなどを整理して、相手が理解しやすいように伝えている。効果的な自己紹介ができるように、選んだテーマに沿って自分の情報を整理して、相手が理解しやすいように伝えている。</p>	<p>自分の名前・性格・特徴など、また、自分の日常の行動や食べ物の好みなどを整理して、相手が理解しやすいように伝えようとしている。効果的な自己紹介ができるように、選んだテーマに沿って自分の情報を整理して、相手が理解しやすいように伝えようとしている。</p>
<p>Lesson 1 Breakfast around the World 私の朝ごはん Lesson 2 Australia's Cute Quokkas 人なつっこい野生動物 文法のまとめ 1</p>	<p>[知識]動詞の過去形・進行形〈be 動詞＋動詞の-ing 形〉を用いた文の形・意味・用法を理解している。また、学んだ事柄や好きな食べ物について、自分の考えや好み、その理由などを整理・理解している。 [技能] 学んだ事柄を用いて、好きな物について、考えや好み、その理由を話して伝える技能を身につけている。また、過去にしたことについて動詞の過去形を用いて伝え合う技能を身につけている。</p>	<p>聞いたり読んだりしたことを活用しながら、好きな物について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、自分の考えや好み、その理由を話したり書いたりして伝え合っている。</p>	<p>聞いたり読んだりしたことを活用しながら、好きな物について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、自分の考えや好み、その理由を話したり書いたりして伝え合おうとしている。</p>

<p>Lesson 3 Life with Spade 愛馬とともに Communication 2 道案内 Let's Listen 1 友達との約束 Lesson 4 A Miracle Mirror 夢のような絶景 英文 Eメールの書き方 Extra Target 1 人物当てクイズ</p>	<p>[知識] 助動詞 can・will・to 不定詞〈to+動詞の原形〉を用いた文の形・意味・用法を理解している。 道案内や相手を何かに誘う文の形や用法について理解している。 [技能] ある場所への行き方とそこでできること、自分ができるところ、できないことについて、助動詞 can・will を用いて、情報や考えを話して伝え合う技能を身につけている。 やりたいこと、行ってみたい場所ややりたいことについて、to 不定詞〈to+動詞の原形〉を用いて、情報や考え、気持ちを話して伝え合う技能を身につけている。</p>	<p>書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、ある場所への行き方とそこでできること、自分ができるところ、できないこと・行ってみたい場所ややりたいことについて、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えを話したり書いたりして伝え合っている。 道案内や相手を何かに誘うための情報を整理し相手にわかりやすく伝えている。</p>	<p>聞いたり読んだりしたことを活用しながら、ある場所への行き方とそこでできること、自分ができるところ・できないこと・行ってみたい場所ややりたいことについて、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えを話したり書いたりして伝え合おうとしている。 道案内や相手を何かに誘うための情報を整理し相手にわかりやすく伝えようとしている。</p>
<p>Lesson 5 A Dream Engine 博多工業高校自動車工学科 Let's Listen 2 車内アナウンス 英文のしくみ 2 文法のまとめ 2 Reading Short Stories in English Extra Target 2 〇〇が…するのを見た Lesson 6 A Funny Picture from the Edo Period 奇想天外な浮世絵師</p>	<p>[知識] 動名詞〈動詞の-ing 形〉・受け身〈be 動詞+過去分詞〉・知覚動詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。 商品の値段や形状を説明する文の形・意味を理解している。 [技能] 将来の夢や芸術について、動名詞〈動詞の-ing 形〉・受け身〈be 動詞+過去分詞〉・知覚動詞を用いて、考えや気持ち・情報などを話して伝え合う技能を身につけている。 バスの停留所や終点を説明する文を聞いて、それらの要素を正しく判断できる技能を身につけている。</p>	<p>書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、将来の夢や先週末に楽しんだことについて、また、自分が好きなものとその理由などについて相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、考えや気持ち、情報、提案などを話したり書いたりして伝え合っている。 最近見たり聞いたりしたことについて、「知覚動詞」を用いて適切に伝えている。 バスの停留所や終点についての説明を聞く状況で、必要な情報を聞き取って、それを整理することができる。</p>	<p>書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、将来の夢や先週末に楽しんだことについて、また、自分が好きなものとその理由などについて相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、考えや気持ち、情報、提案などを話したり書いたりして伝え合おうとしている。 最近見たり聞いたりしたことについて、「知覚動詞」を用いて適切に伝えようとしている。 バスの停留所や終点についての説明を聞く状況で、必要な情報を聞き取って、それを整理しようとしている。</p>
<p>Lesson 7 A Diary of Hope アンネ・フランク Lesson 8 A Door to a New Life ロボットカフェ Communication 3</p>	<p>[知識] 比較表現〈-er〉〈the -est〉、〈as+原級+as〉・現在完了形〈have[has]+過去分詞〉を用いた文の形・意味・用法を理解している。</p>	<p>書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、関心のある人物について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考え、気持ち</p>	<p>書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、関心のある人物について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考え、気持ち</p>

<p>フリーマーケットで買い物 英文のしくみ 3 文法のまとめ 3</p>	<p>電車の乗り換え案内をするにあたり、路線図を見ながら説明する仕方を理解している。 [技能] 歴史上の人物や自分が調べたことについて、比較表現〈-er〉〈the -est〉、〈as+原級+as〉・現在完了形〈have[has]+過去分詞〉を用いて、考えや気持ち、情報などを話して伝え合う技能を身につけている。 フリーマーケットで買い物をするにあたり、表現の使い方や使う場面などを正しく認識し、適切に使用する技能を身につけている。</p>	<p>を話したり書いたりして伝え合っている。 自分で調べた事柄を用いて、人の生活を豊かにするロボットのアイデアを考えて、それを提案する記事を書いたり話したりしている。 フリーマーケットで買い物をするにあたり、表現の使い方や使う場面などを正しく認識し、適切に使用している。</p>	<p>を話したり書いたりして伝え合おうとしている。 自分で調べた事柄を用いて、人の生活を豊かにするロボットのアイデアを考えて、それを提案する記事を書いたり話したりしようとしている。 フリーマーケットで買い物をするにあたり、表現の使い方や使う場面などを正しく認識し、適切に使用しようとしている。</p>
<p>Lesson 9 Ghosts in the Oceans 海にひそむゴースト Lesson 10 Pigs from across the Sea 海の向こうからの贈り物 Reading 2 Mujina Extra Target 3 もし私が○○なら... 文法のまとめ 4</p>	<p>[知識] 「名詞を後ろから説明する分詞」が用いられた文、関係代名詞 who、which を用いた文、仮定法過去〈If+過去形の文、I would ...〉を用いた文の形・意味・用法を理解している。 [技能] プラスチックごみによる環境汚染の問題・第二次世界大戦によって疲弊した沖縄とハワイからの援助について自分で調べた事柄を用いて、自分たちができることを伝え合う技能を身につけている。 もし私が○○なら...」と想像して、しようと思うこと・できることについて、「仮定法過去」を用いて相手と対話することができる技能を身につけている。</p>	<p>書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、プラスチックごみの問題や海外の文化や社会を理解するためにできることについて、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合っている。 「もし私が○○なら...」と想像して、しようと思うこと・できることについて、「仮定法過去」を用いて相手と対話をしている。</p>	<p>書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、プラスチックごみの問題や海外の文化や社会を理解するためにできることについて、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合おうとしている。 「もし私が○○なら...」と想像して、しようと思うこと・できることについて、「仮定法過去」を用いて相手と対話しようとしている。</p>
<p>1年間の評定は、1学期・2学期・3学期の年間を通じて、思考・判断・表現を重視し総合的に判断して決定します。</p>			

3. 学習の計画と評価の観点

学期	月	学習内容	学習のねらい	評価の観点			考査範囲
				知・技	思・判・表	主	
1 学期	4	Warm-Up 1~3 Pre-Lesson 1 Pre-Lesson 2 Communication 1 英文のしくみ 1	英語を学ぶための基礎的な技術を身につける。 英語についての基本的な文法・語彙知識を身につける。 それらを使って自己表現することができる。	○	○	○	中間考査
	5	Lesson 1 Lesson 2 文法のまとめ 1	過去形を使って、過去に起こったことについて表現することができる。 聞いたり読んだりしたことを活用して好きな食べ物や自分の考えについて、相手とやり取りすることができる。	○	○	○	
	6	Lesson 3 Communication 2 Let's Listen 1	助動詞を使って、可能性・将来・義務について、表現することができる。 道案内や相手を誘う表現を身につける。	○	○	○	期末考査
	7	Lesson 4 英文Eメールの書き方	不定詞の用法について理解することができる。 やりたいこと、行ってみたい場所ややりたいことについて発表することができる。	○	○	○	中間考査
2 学期	8	Extra Target 1	クイズ形式で、紹介した人物の情報を英語で表現することができる。	○	○	○	中間考査
	9	Lesson 5 Let's Listen 2 英文のしくみ 2 文法のまとめ 2 Reading 1	動名詞の用法について理解することができる。 自分の将来について英語で伝えることができる。 バスの停留所や終点についてのアナウンスを聞き取り、状況を適切に判断することができる。	○	○	○	
	10	Extra Target 2 Lesson 6	受け身・知覚動詞の用法について理解することができる。 最近見たり聞いたりしたことを表現することができる。 自分の好きな絵について理由も合わせて伝えることができる。	○	○	○	期末考査
	11	Lesson 7	比較表現〈-er〉〈the -est〉〈as+原級+as〉を用いた文の形・意味・用法を理解することができる。 関心のある人物について、英語で説明することができる。	○	○	○	
3 学期	12	Lesson 8 Communication 3 英文のしくみ 3 文法のまとめ 3	現在完了形〈have[has]+過去分詞〉を用いた文の形・意味・用法を理解することができる。 自分で調べた事柄を用いて、人の生活を豊かにするアイデアを考えて、それを提案する記事を書いたり話したりすることができる。 買い物をするのに必要な表現を習得することができる。	○	○	○	学年末考査
	1	Lesson 9	「名詞を後ろから説明する分詞」が用いられた文の形・意味・用法を理解することができる。 プラスチックごみの問題について自分たちにできることについて、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合うことができる。	○	○	○	

2	Lesson 10	<p>関係代名詞who、 whichを用いた文の形・意味・用法を理解することができる。</p> <p>海外の文化や社会を理解するためにできることについて、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いたりして伝えあうことができる。</p>	○	○	○
3	<p>Reading 2</p> <p>Extra Target 3</p> <p>文法のまとめ 4</p>	<p>物語の内容を理解し、登場人物の気持ちを考えながら音読することができる。</p> <p>仮定法過去〈If＋過去形の文, I would …〉を用いた文の形・意味・用法を理解することができる。</p> <p>「もし私が○○なら…」と想像して、しようと思うこと・できることについて、「仮定法過去」を用いて相手と対話することができる。</p>	○	○	○

家庭基礎

教 科	家庭科	単位数	2	学科・学年	1年
使用教科書	家庭基礎 ～自立・共生・創造～ (東京書籍)				
副教材等					

「家庭基礎」の到達目標は

- (1)家庭生活に関する様々な課題を見つけ、自分の生活と向き合い、これからの人生を生きる上で必要な広範囲の知識と技術を身につける。
- (2)人生100年時代の将来まで見通した生き方を考え、豊かで充実した暮らしを実現可能にするための課題を設定し、様々な視点から興味関心を深め、解決へと導く力を養う。
- (3)自分の周りから地域社会、さらに世界へと視野を広げ、持続可能な社会をつくる暮らしの担い手となるために、主体的に取り組み創造しようとする実践的な態度を養う。

1. 評価の観点の趣旨と方法

	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の 観点の 趣旨	<ul style="list-style-type: none"> • ひとの一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境など自立した生活者として生活を営むために必要な基礎的なことを理解している。また、それらに関する技術を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 家族や家庭、社会における生活の中から問題を見出して課題を設定することができる。また、課題解決のために生活を科学的に探究して、それを根拠に生活を工夫し創造できる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 自立した生活者に必要な知識・技能を身につけ、地域社会に参画し、共に支えあう社会の実現にむけて生活を創造し、主体的に実践しようとしている。
評価の 方法	<ul style="list-style-type: none"> • 年3回の定期考査 • 休業中に出題される課題及びその内容 • 製作課題の出来栄 • 単元ごとの小テスト • ホームプロジェクトの内容 	<ul style="list-style-type: none"> • 年3回の定期考査 • 長期休業中に出題される課題及びその内容 • 製作課題の作品に対する創意工夫とその内容 • 配布プリントの内容 • 実験実習に関する考察のレポート • ホームプロジェクトの発表 	<ul style="list-style-type: none"> • 年3回の定期考査 • 授業の出席状況 • プリントの提出状況とその内容 • 授業や実習に取り組む姿勢やその内容 • ルーブリックにより単元に対する理解度や積極性を知る

2. 評価の規準（及び年間の評定）

内容のまとめ(単元)	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1章 生涯を見通す	生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉えることができる。	家庭科の学習がキャリア形成につながることを理解できる。	自分や家族、地域社会に関心を持ち、主体的に取り組む態度が見られる。
第2章 人生をつくる	生涯発達の視点から各ライフステージの特徴と課題について理解できる。	生涯を通して自分をみつめ、自己実現のための目標が表現できる。	社会環境が変化する中で、社会と協力・協働して創造しようとする。
第3章 子どもと共に育つ	子どもの育つ力を知り、社会全体で子育てを支援する必要性を認識する。	子どもを育むための役割を考え、課題を見出し解決の糸口を探す。	命に対する責任や子育てにおける課題に関心を持ち、考える。
第4章 超高齢社会を共に生きる	日本の超高齢社会の現状と課題、高齢期の心身の特徴や生活を理解している。	人生100年時代を見通して、具体的に課題を見つけて思考を深めることができる。	高齢者の自立支援について考え、協力・協働するための具体的な考えが持てる。
第5章 共に生き、共に支える	共生社会の重要性や社会福祉の理念や内容について必要な知識を身につけている。	共生社会を実現するために何ができるかを考え、工夫することができる。	社会の一員としての自覚を持ち、ボランティア活動など主体的に行動しようとする。
第6章 食生活をつくる	栄養、食品、調理に関する基礎的な知識を身につける。食事と健康とのかかわりや、日本の食文化への理解を持っている。	健康な食生活を営む上で、食の安全性や環境について関心を深めることができる。	食生活と健康の関わりを考え、食生活の改善・向上に努めようとする。また、実習や実験に積極的に取り組もうとする。
第7章 衣生活をつくる	被服の機能を理解し、被服製作を通して基礎的な知識と技術を身につけられる。	健康と安全、資源や環境の持続性に配慮した衣生活について考え、工夫ができる。	衣生活に関心を持ち、結果的に全ての人が楽しめる衣生活を考え、行動することができる。
第8章 住生活をつくる	住居に関する基本的な知識を身につけ、科学的な理解を基に住居を見る目が持てる。	住環境や住生活の課題を挙げることができ、その解決策を構想し、表現することができる。	生涯を見通して住生活に関心を持ち、安全で快適な住生活を創造しようとする。
第9章 経済生活を営む	消費者の権利と責任を自覚し、消費者として意思決定や契約の重要性について理解し、自立した消費者になるための必要な知識を身につけている。	自立した消費者として、生活情報を収集して判断し、考察することができる。消費行動における課題を解決する力を身につけている。	消費行動や意思決定について、主体的に取り組むことができる。持続可能な消費者市民社会の実現に向けて考え、行動しようとする。
第10章 持続可能な生活を営む	持続可能な社会を構築するための消費や生活について知識をもち、理解している。	持続可能な社会の実現にむけて、地球全体の問題や課題を見つけ、生涯を通して解決策を考え行動することができる。	毎日の生活を持続可能なものにするために、一人ひとりの力が世界の問題解決につながることを理解し、行動する。
第11章 これからの生活を創造する	生涯の生活設計に必要な知識を身につけ、具体的な生活設計を立てることができる。	自己実現を目指して生活設計を考えてまとめ、発表することができる。	自己の生活設計に関心を持ち、目標達成のために必要な行動は何かを考え、実践できる。
1年間の評価は、1学期・2学期・3学期の年間を通じて、授業や実習の態度を重視し、知識・技能及び思考・判断・表現などを考慮した上で、総合的に判断して決定します。			

3. 学習の計画と評価の観点

学期	月	学習内容	学習のねらい	評価の観点			審査範囲
				知・技	思・判・表	主	
1 学期	4	第1章 生涯を見通す	家庭科の学習が、家族・社会との共生、生活の自立、生活の創造につながることを理解し、学習意欲を高める。生涯を通して、自己の生活設計を考えることができる。よりよい家庭生活を実現するために、家族に関わる法律や社会制度について知る。	○	○	○	1 学期 期末 審査
	5	第2章 人生をつくる		○	○	○	
	5	第5章 共に生き、共に支える	生涯を通じた福祉や社会的支援の必要性を知る。社会保障制度の理念と内容を理解する。	○	○	○	
	6	第7章 衣生活をつくる	被服の様々な役割を知る。被服の材料や性能、加工について科学的に理解する。生涯を通じて健康で安全な衣生活が営める工夫をする。被服製作を通じて基礎的な縫い方や技術を身につける。	○	○	○	
	7	ホームプロジェクトの 取り組み	生活課題を発見する視点やその課題を解決するための手立てについて、理解を深める。	○	○	○	
2 学期	8	第3章 子どもと共に育つ	命に対する責任を持ち生殖に関する健康について知る。子どもの能力や心身の発達について理解し、子どもが育つ環境を整えることを理解する。児童福祉の理念を理解し、子育て支援の現状を学ぶ。	○	○	○	2 学期 期末 審査
	9			○	○	○	
	10	第6章 食生活をつくる	生涯を健康に過ごすために食生活の課題、食生活を取り巻く環境の変化などを理解する。食品の栄養や調理上の性質を科学的に理解する。生涯を通じて健康で安全な食生活が営める工夫をする。日本各地及び世界の食文化に関心を持ち、私たちの食生活への影響に気づく。	○	○	○	
	11		食品の栄養や調理上の性質を科学的に理解する。生涯を通じて健康で安全な食生活が営める工夫をする。日本各地及び世界の食文化に関心を持ち、私たちの食生活への影響に気づく。	○	○	○	
	12	第9章 経済生活を営む	自立した責任ある消費者として、意思決定の重要性と情報の活用について理解する。大きく変化する世界経済の中で、家計と地域社会・国民経済・国際経済のつながりを理解し、自分の家計をマネジメントする力を身につける。消費生活と環境の関りを理解して、持続可能な生活ができるように考えて行動ができる。	○	○	○	
3 学期	1	第8章 住生活をつくる	生涯を見通した住生活について考え、将来の自立に向けて生活拠点となる住居の機能や住要求の変化を知る。防災や日照、換気などに関する環境性能について理解し、快適で健康かつ安全な生活を行う条件を知る。持続可能な住生活を目指し、地域コミュニティづくりの担い手となることの重要性を理解することができる。	○	○	○	3 学期 期末 審査
	2	第4章 超高齢社会を共に生きる	高齢者の心身の変化や生き方について理解を深める。高齢者に関する福祉について学び、高齢者を支える制度と課題を考える。	○	○	○	
		第10章 持続可能な生活を営む	今までの学習を踏まえて、一人の主体者として、社会全体をよりよい方向へ動かすことを考えられる。	○	○	○	
	3	第11章 これからの生活を創造する	自己実現のため、各ライフステージの課題や生活資源、リスク管理などについて、これまでの学習を振り返りながら卒業後の生活設計ができる。	○	○	○	

工業技術基礎

教 科	工業	単位数	3	学科・学年	総合工学科群・1年
使用教科書	工業技術基礎（実教出版）				
副教材等	計算技術検定問題集				

「工業技術基礎」の到達目標は

- ・工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の諸課題を適切に解決することに必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- (1) 工業技術について工業のもつ社会的な意義や役割と人と技術との関わりを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 工業技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。
- (3) 工業技術に関する広い視野をもつことを目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

1. 評価の観点の趣旨と方法

	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・工業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と、技術・技能を身に付けている。 ・ものづくりを合理的に計画し、身に付けた技術を適切に応用する力がある。 ・知的財産や環境にも配慮したものづくりができる基礎力を身に付け、工業の意義や役割を俯瞰的に理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識と技術を基に、工業的な見方・考え方を働かせることができる。 ・工業技術に関する諸課題の解決を目指して技術者として適切に判断できるとともに、創造的に思考を深めることができる。 ・自分の考えを正確に表現する力を身に付け、その能力を活かして主導的に活動できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工業技術に関する諸分野について関心をもち、知識と技術・技能の獲得に意欲的である。 ・身に付けた技術や技能の改善と向上を目指して、継続的に学習活動に取り組んでいる。 ・安全を最優先した態度を身に付けるとともに、実践的な技術獲得に向け、自らの学習を調整する態度を身に付けている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・作業、実験の様子 ・課題への取り組み（進度） ・発言内容 ・加工技術、技能レベル ・作品の仕上がり ・レポートの内容 ・実技試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業、実験の様子 ・発展課題への取り組み（進度） ・発言内容 ・レポートの内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業準備、授業態度 ・出席状況 ・課題への取り組み姿勢 ・レポート提出状況

2. 評価の規準（及び年間の評定）

内容のまとめり(単元)	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
総合分野1 寸法のはかり方	・ノギスやマイクロメータの使用方法を理解し、適切に使用・結果の読取をすることができる。	・課題に対して適切な測定機器を選び、測定し、結果をまとめることができる。	・測定結果や測定器の性能・使用法について関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。
総合分野2 知的財産とアイデアの発送	・知的財産権について基本的な知識を身に付け、その意義を理解している。また、アイデアを生み出す思考方法に関する基本的な知識と技術を身に付けるとともに、特許検索に関する、実践的な技能を身につけている。	・新規なアイデアを生み出す柔軟な思考・判断ができる。また、身に付けた発想法を生かして、社会の発展をはかる創造的な活動ができる。創造活動の中で、自分の考えを相手に適切に伝える表現力を活用できる。	・知的財産権とアイデアの発想方法に興味・関心を持ち、主体的に創造活動に取り組むことができる。また、知的財産権を保護する態度を身に付けるとともに、特許検索を積極的に活用する態度がある。
総合分野3 事故防止と安全作業	・実験・実習を中心に学習が展開されるので、事故防止と安全作業に関する知識を理解するとともに、安全に作業するための基本的なスキルが身に付いている。	・実験・実習を中心に学習が展開される授業の中で、事故防止のための危険予測の判断ができる。また、より安全な作業ができるよう思考力を働かせるとともに、作業環境の改善に役立つ適切な表現ができる。	・事故防止と安全作業に主体的に関わることができる。また、「ものづくり」などの作業を行うにあたり、安全を最優先する意思と態度を身に付けている。
総合分野4 実験・実習報告書の作成、発表	・「実験・実習報告書の作成」についてその意義をよく理解し、報告書をわかりやすくまとめる知識と技能を身につけている。	・「実験・実習報告書の作成」により、実験・実習の目的や内容を再確認するとともに、事後にも役立つように思考して判断を一層深め、的確な表現力を身につけている。	・「実験・実習報告書の作成」に興味・関心を持ち、その改善向上を主体的にめざして意欲的に取り組むとともに、実験・実習の成果を発展させる態度を身につけている。
機械分野1 旋盤	・旋盤の操作方法を理解し、課題作品を仕上げることができる。	・課題に対し適切な作業方法・工程を考え、実践することができる。	・旋盤の操作方法等について関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。
機械分野2 板金加工	・板金の作業方法を理解し、課題作品を仕上げることができる。	・課題に対し適切な作業方法・工程を考え、実践することができる。	・板金の作業方法や技術について関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。
電子機械分野1 ロボット制御	・micro:bitの基本的なプログラミング方法を理解するとともに、マイコンの入出力制御の方法を学習する。	・micro:bitを活用することで、プログラミングの幅を広げることができる。正確で効率の良いプログラミングができるよう創意工夫している。また、その手法を適	・micro:bitを通して、主体的にプログラミングの技術習得に興味・関心を持ち、正確にプログラミングを実践する意欲的な態度を身につけている。

		切に表現することができる。	
電子機械分野2 3D-CAD	<ul style="list-style-type: none"> • CAD によるモデリング作業の作業手順を習得するとともに、作成した形状モデルのCAMシステムへの伝達方法について習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> • CAD におけるモデリング方法について適切に思考・判断し、作業の意義についての確に表現できる技量を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> • CAD におけるモデリングの方法に主体的に興味・関心を持ち、基礎的作業に意欲的に取り組む態度を身につけている。
電気分野1 電気工事	<ul style="list-style-type: none"> • 回路計の学習を通して、基礎的・基本的な計測の知識・技能を身につけ、生産活動における電気計測機器の重要性と社会的意義や役割を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 回路計の学習を通して、みずから各部品や回路の望ましい測定方法を思考・判断し、効率よい計測を創意工夫し、その成果を適切に表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 回路計の学習を通して、主体的に計測機器のしくみや働きに興味・関心を持ち、安全で正確に電気回路の計測を実践する意欲的な態度を身につけている。
電気分野2 マイコン制御	<ul style="list-style-type: none"> • Arduino マイコンを用いた回路製作ができる。 • C言語によるプログラミングができる 	<ul style="list-style-type: none"> • メモリーチップ, CPU, I/O 制御チップの関係について論理的に考察できる。 • 出力装置, 入力装置について論理的に考察できる。 	<ul style="list-style-type: none"> • Arduino マイコンを用いた回路製作, C言語によるプログラミングに関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、学習態度は真剣である。
建築インテリア分野1 木材加工	<ul style="list-style-type: none"> • 用途に応じた手工具の正しい選定や使用方法の知識を習得し、安全に配慮した作業方法の技能を身につけている。 • 正確に効率よく木材を加工する技能を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 用途に応じた手工具の正しい選定や使用方法を適切に思考・判断し、安全に配慮した作業法を表現する技量を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 用途に応じた手工具の正しい選定や使用方法に主体的に興味・関心を持ち、安全に配慮して意欲的に作業に取り組む態度を身につけている。
建築インテリア分野2 住宅設計	<ul style="list-style-type: none"> • 建築物の外観パース・内観パースの描き方を理解し、正しく描く技能を身につけている。 • スチレンボードの加工方法や模型の製作手順を理解し、正確に模型を製作する技術を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 建築物の外観パース・内観パースの描き方を適切に思考・判断し、美しいパースの表現方法を身につけている。 • スチレンボードの加工方法や模型の製作手順を思考・判断し、表現する力を身につけている。 • 敷地の大きさ, 間取り, 方角などの条件に合わせて造園の計画ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 建築物の外観パース・内観パースの描き方に興味・関心をもち、正しいパースが描ける実践的な態度を身につけている。 • スチレンボードの加工方法や模型の製作手順, 造園計画に興味・関心をもち建築模型を製作する実践的な態度を身につけている。
電卓の使い方	<ul style="list-style-type: none"> • 計算技術について基本的な式変形等の知識と技術を身に付けている。また、それを活かし、計算機を用いた四則演算, 関数の計算, 実務計算を一定の時間内でできる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 自らの判断力により、効率よく計算する手法を考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 計算機を使いこなすための練習に励むとともに、自らの取り組みを改善していこうとする姿勢がある。

選択機械コース1 旋盤	<ul style="list-style-type: none"> ・旋盤の操作方法を理解し、課題作品を仕上げることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対し適切な作業方法・工程を考え、実践することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・旋盤の操作方法等について関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。
選択機械コース2 ガス溶接	<ul style="list-style-type: none"> ・溶接の種類や留意点を理解するとともに、ガス溶接/ガス切断やアーク溶接を用いて課題作品を仕上げることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対し適切な作業方法・工程を考え、実践することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・溶接の種類や留意点、溶接の技法について関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。
選択機械コース3 鋳造	<ul style="list-style-type: none"> ・鋳造の工程や留意点を理解し、課題作品を仕上げることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対し適切な作業方法・工程を考え、実践することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鋳造が使用される製品や作業工程等について関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。
選択電子機械コース1 手仕上げ	<ul style="list-style-type: none"> ・機械加工における手仕上げの方法の正しい知識を習得して、安全に配慮した作業法の技能を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・機械加工における手仕上げの方法について適切に思考・判断し、基礎的作業における手仕上げの意義についての確に表現できる技量を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・機械加工における手仕上げの方法に主体的に興味・関心を持ち、手仕上げの基礎的作業に意欲的に取り組む態度を身につけている。
選択電子機械コース2 リレーシーケンス	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的なリレーシーケンスに関する知識と理論を身に付けている。また、安全に配慮した電気配線ができる技術を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの思考・判断により、目的に応じたシーケンス図を作成できるとともに、安全かつ効率よく配線する方法を創意工夫できる。また、その成果を適切に表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リレーシーケンスに関する基礎的・基本的な技術に興味・関心を持ち、意欲的に実習に取り組み、主体的に技術を身に付けようとする実践する態度を身につけている。
選択電子機械コース3 電気計測	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な電気計測の知識・技能を身につけるとともに、電気計測機器の内部構造についても電気の理論に基づいた理解ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電気計測の実験に際し、みずから回路の配線を考えることができ、望ましい測定方法を判断することができる。また、効率よく計測できるように創意工夫できる。計測結果を適切に表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に計測機器のしくみや働きに興味・関心を持ち、安全で正確に電気回路の計測を実践する意欲的な態度を身につけている。
選択電気コース1 電気工事	<ul style="list-style-type: none"> ・屋内配線工事を通して、基礎的・基本的な配線工事に関する知識と技能を身につけ、生産活動における電気工事の社会的意義や役割を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・屋内配線工事を通して、各機器の正しい接続や配線工事の方法を思考・判断し、効率よい配線を創意工夫し表現する能力を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・屋内配線工事を通して、電気工事に関する基礎的・基本的な技術に主体的に関心を持ち、安全で合理的な配線工事を意欲的に実践する態度を身につけている。
選択電気コース2 電気計測	<ul style="list-style-type: none"> ・直流・交流回路の実験を通して、基礎的・基本的な電気に関する知識と技能を習得し、生産活動における電気回路の 	<ul style="list-style-type: none"> ・直流・交流回路の実験を通して、部品の望ましい接続方法を思考・判断し、効率よい実験工程を創意工夫する能力を身につけるとともに、その 	<ul style="list-style-type: none"> ・直流・交流回路の実験を通して、電気に関する基礎的・基本的な技術に興味・関心を持ち、意欲的に実験に取り組み、主体的に電気実験を実践

	社会的意義や役割を身につけている。	成果を適切に表現することができる。	する態度を身につけている。
選択電気コース3 製作実習・C言語等	・プリント配線の学習を通して、基礎的・基本的な基板製作の知識と技能を確実に身につけ、生産活動におけるプリント配線の重要性と社会的意義や役割を身につけている。	・プリント配線の学習を通して、各部品の望ましい配置や配線方法を思考・判断し、効率的な回路や組立工程を創意工夫する能力を身につけるとともに、その成果を適切に表現することができる。	・プリント配線の学習を通して、主体的に電子部品や回路の基礎的・基本的な技術に関心を持ち、安全で合理的なプリント基板の製作を意欲的に実践する態度を身につけている。
選択建築インテリアコース1 模型	・軸組模型の製作を通して、構成する部材の名称や役割などの知識を習得し、正しく模型を製作する技能を身につけている。	・軸組模型の製作において、各部材の望ましい加工方法をみずから思考・判断し、効率よい加工や製作工程を創意工夫し、表現する能力を身につけている。	・軸組模型は住宅の構造を理解する上で重要であることに関心を持ち、主体的・意欲的に軸組模型製作に取り組むとともに、安全で合理的に製作をする実践的な態度を身につけている。
選択建築インテリアコース2 木材加工	・用途に応じた手工具の正しい選定や使用方法の知識を習得し、安全に配慮した作業方法の技能を身につけている。 ・正確に効率よく木材を加工する技能を身につけている。	・用途に応じた手工具の正しい選定や使用方法を適切に思考・判断し、安全に配慮した作業法を表現する技量を身につけている。	・用途に応じた手工具の正しい選定や使用方法に主体的に興味・関心を持ち、安全に配慮して意欲的に作業に取り組む態度を身につけている。
選択建築インテリアコース3 立体	・物体の形を平面上に表現する方法として用いられる投影法を習得し、その図法を正しく理解し表現しようとして意欲的に取り組むとともに、実践的な知識・技能を身につけている。	・物体の形を平面上に表現する方法として用いられる投影法の重要性を思考・判断し、その図法を正しく理解し表現しようとして意欲的に取り組むとともに、実践的な行動力を身につけている。	・物体の形を平面上に表現する方法として用いられる投影法に興味・関心を持ち、その図法を正しく理解し表現しようとして意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。
<p>・1年間の評定は、1年間で実施したすべての実習パートについて成績会議で協議・検討し、3つの観点をバランスよく、総合的に判断して決定します。</p>			

3. 学習の計画と評価の観点

学期	月	学習内容	学習のねらい	評価の観点			審査範囲
				知・技	思・判・表	主	
1学期	4 ～ 7	工業技術基礎 ローテーション1-1 「寸法のはかり方」 「旋盤」 「板金加工」	「寸法のはかり方」 ・ノギス、マイクロメータ等での測定の基礎を習得 「旋盤」 ・旋盤の操作方法や基本的な加工技術の習得 「板金加工」 ・手工板金による、スマホスタンドの製作	○	○	○	実施しない
		工業技術基礎 ローテーション1-2 「知的財産とアイデアの 発送」 「ロボット制御」 「3D-CAD」	「知的財産とアイデアの発送」 ・知的財産権と産業財産権の違いについて理解するとともに、IPDL検索や発想教育演習を通して、工業教育における知的財産の必要性を学習する。 「ロボット制御」 ・基本的なロボットの制御をmicro:bitで制御できる。 「3D-CAD」 ・図面製作や立体構造を理解し、実際に3Dデータの作成ができる。	○	○	○	
		工業技術基礎 ローテーション1-3 「事故防止と安全作業」 「電気工事」 「マイコン制御」	「事故防止と安全作業」 ・事故防止に努め、安全に作業を行う態度を身につける。 ・事故発生時の対処について理解させ、安全に行動ができる態度を身につける。 「電気工事」 ・電気工事における電線の接続方法等について技術や技能を習得する 「マイコン制御」 ・マイコンの種類・特性を理解し、Arduinoマイコンの活用方法をプログラムすることにより確認する。	○	○	○	
		工業技術基礎 ローテーション1-4 「実験・実習報告書の作 成、発表」 「木材加工」 「住宅設計」	「実験・実習報告書の作成、発表」 ・報告書をわかりやすくまとめる知識と技能を身に付け 「木材加工」 ・基礎的な工具の選定や扱いかたについて習得し、作業を正しい手法で能率よく進められるようにする。 「住宅設計」 ・建築物をつくるためにPCを活用した設計方法、計算方法を習得する。	○	○	○	
2学期	9	工業技術基礎 ローテーション2 「電卓の使い方」	「電卓の使い方」 ・計算機の使用法とデータの取り扱い方を学ぶ。	○	○	○	

2学期
3学期

1 0 ~ 3	工業技術基礎 □-テーション3-1 「旋盤」 「ガス溶接」 「鋳造」	「旋盤」 ・旋盤の操作方法や基本的な加工技術の習得 「溶接」 ・ガス溶接の取扱い方法とガス溶接技術の習得 「鋳造」 ・鋳物による鉄アレーの製作	○	○	○
	工業技術基礎 □-テーション3-2 「手仕上げ」 「リレーシーケンス」 「電気計測」	「手仕上げ」 ・メモホルダを製作することでけがきやヤスリがけ等の手作業、ボール盤の使い方を習得する。 「リレーシーケンス」 ・押ボタンSW・リレーを使っての自己保持回路を覚え、電球を点灯・消灯する回路を作れるよう学習する。 「電気計測」 ・メータの内部抵抗を測定する方法を習得し、分流器・倍率器の設計ができる。また配線方法も習得する。	○	○	○
	工業技術基礎 □-テーション3-3 「電気工事」 「電気計測」 「製作実習・C言語等」	「電気工事」 ・電気工事における複線図と電線の接続方法等について技術や技能を習得する 「電気計測」 ・各種計器の取り扱い方を習得し、計測実習を通して実際にオームの法則が成り立つことを確認する。 「製作実習・C言語等」 ・電子回路を構成する電子素子や電子部品について学び、ハンダ付け作業の方法を習得する。 ・C言語の基本的プログラムについて学び、検定試験等に対応できるプログラミング技術を習得する。	○	○	○
	工業技術基礎 □-テーション3-4 「模型」 「木材加工」 「立体」	「模型」 ・在来軸組構法の骨組の構成を理解する。 ・部材の名称や部材の位置関係を理解する。 ・縮尺や寸法の感覚を養う。 ・伏図、軸組図それぞれの建築図面の役割を理解し、立体で表現できるようにする。 ・建築構造や製図と関連付けて、木造建築物について深く学ぶ。 「木材加工」 ・木取りから塗装までの工程を体験し、木材を材料としたものづくりの流れを理解する。 「立体」 ・物体を平面状で立体的に表現する方法として投影法があることを理解し、投影法の体系は、基本立体を使って建築物と関連させて習得する。 ・各投影法については、投影線と投影面の関係から理解する。 ・透視投影法では、構図の取り方を習得し、視点と建築物の位置から描写が変わることを理解する。 ・光線と影の基本を簡単な作図によって習得し、立面図や透視図に陰影をつけることで豊かで立体感のある表現法となることを実感する。	○	○	○

工業情報数理

教 科	工 業	単位数	2	学科・学年	総合工学科群・1年
使用教科書	工業情報数理（実教出版）				
副教材等	情報技術検定問題集				

「工業情報数理」の到達目標は

- (1) 工業の各分野における情報技術の進展と情報の意義や役割及び数理処理の理論を理解するとともに関連する技能を身に付けるようにする。
- (2) 情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。
- (3) 工業の各分野において情報技術及び情報手段や数理処理を活用する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度や創造性の基礎を養う。

1. 評価の観点の趣旨と方法

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 情報技術に関する基礎的な知識と技術を理解し、情報技術を利用した情報の収集・処理・活用のために必要な技能を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 諸問題の解決をめざしてみずから思考を深め、問題解決方法を適切に判断する能力を身につけており、情報技術を活用して情報を処理・表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報技術に関する基礎的な知識と技術に関心をもち、その習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的・実践的な態度を身につけている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査（年5回実施）（知識・理解を問う設問） 単元テスト 長期休業明けの宿題テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート 授業ノート 単元テスト（記述内容） 定期考査（記述内容） グループワークや発表の内容 	<ul style="list-style-type: none"> 出席状況 授業の取り組み状況 課題の取り組み状況

2. 評価の規準（及び年間の評定）

内容のまとめり(単元)	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1章 産業社会と情報技術 1節	<ul style="list-style-type: none"> 情報・情報処理・データ・情報化社会などの用語を理解している。 コンピュータの構成要 	<ul style="list-style-type: none"> 情報技術の進展にともない産業社会に及ぼす影響について、光と影の部分に関して思 	<ul style="list-style-type: none"> 現代社会では、コンピュータがどのような特徴をもち、どのように利用されてい

<p>コンピュータの構成と特徴</p> <p>2節 情報化の進展と産業社会</p> <p>3節 情報化社会の権利とモラル</p> <p>4節 情報のセキュリティ管理</p>	<p>素をハードウェアとソフトウェアに区別でき、それぞれの特徴理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> •身のまわりのどの機器にコンピュータが組み込まれ利用されているか、産業界のどの分野でコンピュータがどのように利用されているか調査を行い、まとめることができる。 •情報化社会で守るべきモラルについて、情報技術を利用して法的な根拠について理解している。 •情報の不正利用の技術的な防止方法を調査し、報告書にまとめることができる。 •VDT 作業時の健康障害を防止する方法を理解している。 	<p>考・判断でき、自分の考えを表現できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> •コンピュータがパソコンだけでなく、制御や通信など多くの機器に組み込まれて活用されていることが考察できる。 •情報化社会で守るべきモラルについて具体的に考え、たがいの意見を述べたり発表したりできる。 •コンピュータの不正利用防止のために、それらの実態を知り、技術的な対処方法が必要であることが考察できる。 •コンピュータ利用のさいの健康面での注意事項について理解できる。 	<p>るかなどについて関心をもち、意欲的に学習に取り組み、学習態度は真剣である。</p> <ul style="list-style-type: none"> •コンピュータが回路や素子の構成に支えられ発達してきたことや、身のまわりのさまざまな機器やFA・OAに活用されていることに関心をもち、意欲的に学習に取り組み、学習態度は真剣である。 •知的財産権・プライバシーの保護・コンピュータの不正利用対策・コンピュータウイルス、および、それらの対策などに関心をもち、意欲的に学習に取り組み、学習態度は真剣である。
<p>(本科目は情報Ⅰの代替科目の為、以下の単元を第1章の内容に追加し、自作プリント等で補完する)</p>			
<p>•コミュニケーションと情報デザイン</p> <p>1) メディアの特性とコミュニケーション手段</p> <p>2) 情報デザイン</p> <p>3) 効果的なコミュニケーション</p>	<ul style="list-style-type: none"> •情報のデジタル化について理解し、アナログ→デジタルの変換ができる。 •コミュニケーション手段やツールの特徴を理解している。 •情報伝達の役割、方法について理解している。 •情報デザインの考え方を活かしたコミュニケーションコンテンツの方法や評価法を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> •情報のデジタル化に関する各種方法について説明できる。 •情報伝達の方法を理解しピクトグラム等のデザインを考察できる。 •コンテンツ制作の過程を理解し、それらを実践できる。 	<ul style="list-style-type: none"> •情報のデジタル化について関心をもちその変換手順に積極的に取り組める。 •情報デザインについて興味関心をもち、社会の中で用いられている情報デザインについて考察できる。 •コンテンツ制作について適切な手法を検討、実践できる。
<p>第6章 ハードウェア</p> <p>1節 データの表し方</p> <p>2節 論理回路の基礎</p> <p>3節</p>	<ul style="list-style-type: none"> •2進数と16進数について理解し、四則計算や変換・計算ができる。 •基本論理回路を用いて、半加算回路や全加算回路、エンコーダ・ 	<ul style="list-style-type: none"> •10進数の構成から、2進数と16進数の構成が説明できる。 •基本論理回路を用いた応用回路について、論理的に考察できる。 •RS-FF, JK-FF, T- 	<ul style="list-style-type: none"> •2進数, 10進数, 16進数などに関心がある。 •基本論理回路とその応用回路, エンコーダとデコーダ, フリップフロップとカウンタな

<p>処理装置の構成と動作</p>	<p>デコーダ・フリップフロップなどを構成する技能を習得している。</p> <ul style="list-style-type: none"> コンピュータに周辺装置について理解し、適切に接続する技能を習得している。 	<p>FF, D-FFの違いを考察できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> コンピュータにおけるハードウェアの役割としくみを理解し、説明できる。 利用目的に応じた適切な周辺装置を選択し、提案することができる。 	<p>どに関心がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 処理装置と周辺装置に関心がある。そして、上記の事項について意欲的に学習に取り組み、学習態度は真剣である。
<p>第2章 コンピュータの基本操作とソフトウェア</p> <p>1節 コンピュータの基本操作</p> <p>2節 ソフトウェアの基礎</p> <p>3節 アプリケーションソフトウェア</p>	<ul style="list-style-type: none"> キーボードやマウスを扱う技能を習得している。 記憶装置の種類と特徴を理解し、扱う技能を習得している。 アプリケーションソフトウェアに共通する基本的な操作などの技能を習得している。 情報の種類によって適切なアプリケーションソフトウェアを選択して使いこなす技能を習得している。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種記憶装置の取り扱い方の必要性が判断できる。 OSとハードウェア、応用ソフトウェアの関係が考察できる。 アプリケーションソフトウェアの中から必要なソフトウェアを選択することができる。 各種のアプリケーションソフトウェアを活用して情報を処理し、必要な形式で出力できる。 	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータの起動・終了、キーボードの操作、マウスの基本操作、記憶装置の取り扱いなどに関心をもち、意欲的に学習に取り組み、学習態度は真剣である。 基本ソフトウェアと応用ソフトウェアの違い、OSの目的と種類などに関心をもち、意欲的に学習に取り組み、学習態度は真剣である。 日本語ワードプロセッサ、表計算ソフトウェア、プレゼンテーション支援ソフトウェア、データベースソフトウェア、図形処理ソフトウェアなどに関心をもち、意欲的に学習に取り組みとうとする。
<p>第3章 プログラミングの基礎</p> <p>1節 プログラム言語</p> <p>2節 プログラムの作り方</p> <p>3節 流れ図とアルゴリズム</p>	<ul style="list-style-type: none"> 機械語、アセンブラ言語、高水準言語について理解している。 基本的なアルゴリズムを組み合わせて応用的なアルゴリズムを作成する知識を身につけている。 基本的なプログラムを作成し、実行する技能を習得している。 アルゴリズムと流れ図について理解し、これらを活用する技能を習得している。 	<ul style="list-style-type: none"> 機械語、アセンブラ言語、高水準言語の用途を判断し、適切な言語を選択できる。 インタプリタとコンパイラの違いを理解し、用途を考察できる。 最適なプログラムを記述するために必要なアルゴリズムを考えて流れ図として表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 用途に応じたプログラム言語の違いや、プログラムの作り方に関心をもち、意欲的に学習に取り組み、学習態度は真剣である。 問題解決の処理手順であるアルゴリズムと、アルゴリズムを実現するための流れ図を描くことに興味をもち、意欲的に学習に取り組み、学習態度は真剣である。
<p>第5章 Cによるプログラミング</p> <p>1節</p>	<ul style="list-style-type: none"> プリプロセス、ヘッダファイル、main関数などについて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> Cの特徴をBASICと比べて考察できる。 四則計算プログラムを読んで、どのような結 	<ul style="list-style-type: none"> Cはコンパイラ言語であり、プリプロセスや関数など、Cの特徴に関心がある。

<p>C の特徴</p> <p>2節 四則計算のプログラム</p> <p>3節 選択処理</p> <p>4節 繰返し処理</p> <p>5節 配列</p> <p>6節 関数</p> <p>7節 Cによる数値処理</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 整数型・実数型・文字型データの取り扱いについて理解している。 • if 文, else if 文, switch 文, for 文, while 文などについて理解している。 • 選択処理プログラムや繰返し処理プログラムを作成する技能を習得している。 • 一次元配列を利用して, いくつかの整数データの合計を求めるプログラムを作成する技能を習得している。 • 関数を理解し, 関数を用いたプログラムを作成する技能を習得している。 • ファイル処理を理解し, プログラムを作成する技能を習得している。 	<p>果が出力されるか考察できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 選択処理プログラム, 繰返しプログラムを読んで, どのような結果が出力されるか考察できる。 • 一次元配列のプログラム, 標準関数を用いたプログラムなどを読んで, どのような結果が出力されるか考察できる。 • 問題を解決するためのアルゴリズムを理解し, みずからプログラムを作成し, 他人が利用できるソフトウェアのプログラムを記述できる。 • 他人が理解できるわかりやすい最適化されたプログラムを記述できる。 	<ul style="list-style-type: none"> • プログラムの書式, データ型, 演算子などに関心を持ち, 選択処理, 繰返し処理を行う制御文や配列, 関数などについて意欲的に学習に取り組み, 学習態度は真剣である。 • ファイル処理によるデータの保存などに関心を持ち, 意欲的に学習に取り組み, 学習態度は真剣である。
<p>第7章 コンピュータネットワーク</p> <p>1節 コンピュータネットワークの概要</p> <p>2節 コンピュータネットワークの通信技術</p>	<ul style="list-style-type: none"> • データ通信システムと情報通信ネットワークの概要について理解している。 • コンピュータネットワークに使用されている機器について理解し, 簡単な接続ができる。 • コンピュータネットワークで使用するプロトコルについて理解し, 簡単な設定や操作などの技能を習得している。 • 停電対策や雷対策について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> • 家庭のインターネット接続について適切な方式を選択し提案できる。 • コンピュータ実習室のネットワークに使用されている機器やネットワークの構成について説明できる。 • コンピュータネットワークで使用するプロトコルの知識をもち, 適切なプロトコルを利用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> • データ通信の概要とネットワークの概要について関心がある。 • 家庭のインターネット接続やコンピュータ実習室のネットワークに関心がある。 • コンピュータネットワークに使用する機器やプロトコルに関心があり, 学習態度は真剣である。
<p>第8章 コンピュータ制御</p> <p>1節 コンピュータ制御の概要</p> <p>2節 制御プログラミング</p>	<ul style="list-style-type: none"> • コンピュータ制御の概要について理解している。 • コンピュータ制御に必要なプログラムについて理解している。 • LED 点灯など, 簡単なコンピュータ制御の構成法や操作などの技能を習得している。 	<ul style="list-style-type: none"> • 身のまわりの機器がコンピュータ制御されていることを知り, どのような制御を行っているか説明できる。 • 身のまわりの機器に組み込まれているコンピュータの特徴を説明できる。 • 機器に適したコンピュ 	<ul style="list-style-type: none"> • 身のまわりのコンピュータ制御に関心がある。 • コンピュータ制御の具体的な方法に関心がある。 • 身のまわりの組み込み技術とその特徴に関心がある。 • コンピュータ制御につ

	6	2. 論理回路の基礎 3. 処理装置の構成と動作	<ul style="list-style-type: none"> ・2値で演算や制御を行う論理回路の基本について理解する。 ・コンピュータの構成, 処理装置の動作について理解する。 ・入出力装置と補助記憶装置について理解する。 	○	○		期末 考查
	7	第2章 コンピュータの基本操作とソフトウェア 1. コンピュータの基本操作 2. ソフトウェアの基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの正しい利用手続き, キーボードやマウスの基本的な操作について理解する。 ・作成したデータ保存やデータ利用に必要な補助記憶装置の取り扱いについて理解する。 ・ソフトウェアの分類とオペレーティングシステムの目的および基本操作について理解する。 	○		○	
2 学 期	8	3. アプリケーションソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> ・どのようなアプリケーションソフトウェアがあるか理解させ, 実際に使えるようにする。 	○	○		中間 考查
	9	第3章 プログラミングの基礎 1. プログラム言語 2. プログラムの作り方 3. 流れ図とアルゴリズム	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム言語の種類について理解する。 ・問題解決の手段としてのアルゴリズムやプログラムの作成の意味を理解する。 ・順次・選択・繰返しの三つの基本的な流れ図と構造化プログラミングの意義について理解する。 	○	○	○	
	10	第5章 Cによるプログラミング 1. Cの特徴 2. 四則計算のプログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単なプログラムによってCの特徴を理解する。 ・簡単な計算プログラムによってデータ型やデータの入出力方法などを理解する。 	○		○	
	11	3. 選択処理 4. 繰返し処理	<ul style="list-style-type: none"> ・if文とswitch文について理解する。 ・for文とwhile文について理解する。 	○	○		
	12	5. 配列 6. 関数 7. Cによる数値処理	<ul style="list-style-type: none"> ・配列の宣言や使用方法について理解する。 ・関数の作り方, 標準関数の使い方などについて理解する。 ・答を近似的に求める数値計算プログラムについて理解する。 ・ファイルの種類や利用方法について理解する。 	○		○	期末 考查
	1	第7章 コンピュータネットワーク 1. コンピュータネットワークの概要 2. コンピュータネットワークの通信技術	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータネットワークを利用したデータ通信の利点について理解する。 ・身近なコンピュータネットワークについて理解する。 ・ネットワーク機器とネットワークの形態について理解する。 ・家庭のコンピュータをインターネットに接続する方法について理解する。 ・コンピュータネットワークに必要な通信技術や技術的な約束事について理解する。 	○		○	

2	第8章 コンピュータ制御 1. コンピュータ制御の概要 2. 制御プログラミング 3. 組込み技術と問題の発見・解決	<ul style="list-style-type: none"> • コンピュータ制御の考え方について理解する。 • コンピュータ制御の具体的な方法について理解する。 • 身のまわりの組込み技術の概要を知り，特徴を理解させる。 		○	○	学 年 末 考 査
3						

工業環境技術

教 科	工業	単位数	2	学科・学年	総合工学科群・1年
使用教科書	工業環境技術（実教出版）				
副教材等					

「工業環境技術」の到達目標は

- (1) 工業的な見地に立ち、実践的・体験的な学習活動を通して環境に関する調査や評価、管理に必要な資質を身に付ける。
- (2) 工業の各分野における産業と環境との関係を理解し、環境保全に関する基礎的な知識と技術を習得する。
- (3) 環境問題や環境技術に関する諸課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づいて課題を解決する能力を養う。
- (4) 環境技術を活用し、持続可能な社会を構築する力を高めるとともに、工業の発展に主体的・協働的に取り組む態度を養う。

1. 評価の観点の趣旨と方法

	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	環境問題の種類やその特徴を理解し、環境保全に求められる基礎的な環境技術や方策に関する知識を身に付けている。また、環境問題や環境技術を理解するために、情報の検索と選択や資料の活用のほか、調査・実験についても適切に行うことができる。	身近な環境問題から地球環境問題までを系統的にとらえ、人類が環境に与える影響や人間と環境技術が果たす役割について思考・判断することができる。また、環境問題を解決するための方策や考え方を論理的かつ創造的に表現することができる。	環境問題や環境保全技術に関心をもち、環境にかかわる諸課題の探求と問題解決のため主体的に学習することができる。また、環境問題と環境保全技術を理解するために既存の知識と新たに習得した知識を融合して探求的な学習活動を行うことができる。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査（年5回実施）（知識・理解を問う設問） ・小テスト ・確認プリント ・ワークシート ・授業ノート ・成果物（提出された課題の内容、実験結果等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時の発言内容 ・思考・判断した過程や結果を適切に説明（表現・発言）できる。 ・確認プリントやワークシート、授業ノートの記述内容 ・定期考査、小テスト、宿題テスト（思考・判断・表現を問う） ・成果物（授業ノート、授業プリント、レポート内容） 	<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況 ・授業準備（必要な持ち物、事前課題提出等） ・授業態度（言葉遣い、挙手、取組状況等） ・成果物（課題提出、授業ノート、授業プリント等）

2. 評価の規準（及び年間の評定）

内容のまとめ(単元)	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>第1章 地球と人類 1節 地球の成り立ち 2節 地球上の資源 3節 世界の資源と人間</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地球の成り立ちと地球の構造および物質の循環のしくみを理解し、地球の構造や循環のサイクルを模式的な図によって表すことができる。 地球上のさまざまな資源について、それぞれの特徴と問題点を理解するとともに、資源量を直感的にわかりやすい容積に換算して表すことができる。 世界人口の増加と資源消費の拡大にともなう諸問題を理解し、いろいろなデータやグラフから資源の偏在性と依存度などを把握することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地球上を循環する物質の役割を考察し、現代における炭素や水の循環システムが地球環境にどのような影響を与えているか説明することができる。 地球上のさまざまな資源が社会や生活にどのようなにかかわっているか考察し、資源活用のあり方と資源保護の必要性を説明することができる。 人間の経済活動や生産活動が世界の資源消費に与える影響について考察し、世界の資源と日本の資源利用にかかわる問題点を提起することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地球の構造や物質の循環のしくみを理解するために、今までに習得した知識や図表などの情報を活用しながら学習しようとしている。 資源に関する知識を確実なものにするために地球上のさまざまな資源がもつ社会的な価値について、調べ学習を通して理解しようとしている。 資源をめぐる諸問題や世界の国々と人々の生活と資源とのかかわりについて、ほかの科目で習得した知識を活用しながら探求しようとしている。
<p>第2章 社会と環境 1節 社会と環境の歴史 2節 日本の環境政策</p>	<ul style="list-style-type: none"> 過去に日本で発生した公害問題とその対策および地球規模の環境問題とそれに対処するための国際的な取り組みについて理解している。 環境保全を目的とした法律や制度の主旨を理解し、環境への影響評価や環境保全の手法、担い手の役割についての知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 公害や環境問題が発生した背景と環境問題が地域から地球規模へと拡大してきた経緯を検証し、国際社会の取り組みの重要性を説明することができる。 日本の環境政策や法律、基本計画をもとに、国や自治体、事業者、市民、技術者に求められていることと果たすべき役割について説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地球環境問題に向けて今日までに制定された条約などを理解するため、環境問題の歴史を時系列的に整理しながら学習に取り組みようとしている。 環境に関する法律相互の関係や環境アセスメントの手順は理解が難しいため、フローチャートなどを活用するなどして学習しようとしている。
<p>第3章 地球温暖化とエネルギー 1節 地球温暖化とその影響 2節 エネルギーの利用技術と地球温暖化対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化の要因と地球温暖化の防止策および適応策について理解し、将来の気温上昇の予測と影響をグラフや図表から読み取ることができる。 エネルギーの供給と消費の関係やエネルギー資源の利用形態および高効率な利用技術に関する知識を身に付け、それを図に描くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化のシナリオと温暖化の予測との関係を考察し、地球温暖化がもたらす社会的・生物学的影響とその対策について検討することができる。 おもな国の発電構成から各国のエネルギー事情を推察するとともに、エネルギー利用技術の種類ごとに長所と短所を判断することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化による危機を身近なものとして意識し、いろいろな情報を取捨選択して知識を補いながら地球温暖化に関する学習を進めようとしている。 いろいろな発電方法やエネルギーの転換・利用技術に興味・関心を持ち、他の科目で学習した内容と関連させて理解を深めようとしている。

<p>第4章 廃棄物とリサイクル 1節 廃棄物の現状 2節 廃棄物の処理技術と管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物の分類および一般廃棄物と産業廃棄物の排出量と処理方法に関する知識を身に付け、廃棄物の不法投棄や広域移動などの実態も把握している。 ・廃棄物の分別・収集から処理・処分までの一連の流れと具体的な方法のほか、製品のライフサイクルと3Rに関する知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の経済活動にともなうごみ問題について考察し、ごみ処理の必要性と廃棄物処理にかかわる問題点や課題をまとめ、説明することができる。 ・廃棄物の処理に求められる技術や環境対策を理解し、廃棄物の抑制と3Rの取り組みから望ましいごみの処分方法について判断することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の活動により発生するごみ問題に関心をもち、廃棄物をめぐる諸問題を解決するために思考を整理しながら学習を進めようとしている。 ・廃棄物の処理方法と処分技術および制度理解は内容が多岐にわたるため、効果的に知識の習得ができるように学習方法を試行錯誤している。
<p>第5章 地域環境の保全 1節 大気汚染の現状と対策 2節 水質汚染の現状と対策 3節 土壌・地下水汚染の現状と対策 4節 騒音・振動・臭気 の現状と対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大気汚染物質の種類と特徴および環境基準の概要を理解し、排出ガスの処理技術や排出ガスの規制に関する知識と図示できる技能を身に付けている。 ・水質汚染の原因と影響および水の汚れを示す指標について理解し、汚水や汚泥の処理方法・処理技術に関する基礎的な知識を習得している。 ・土壌汚染物質や地下水を汚染する物質の種類を理解し、土壌汚染や地下水の汚染を防ぐための知識を身に付けている。 ・感覚公害の種類と特徴およびそれぞれに必要な対策について理解するとともに、騒音を算出するために数学的な計算を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大気汚染物質の発生原因を考察し、排出ガス中の汚染物質を適切に除去するためにどのような技術の組み合わせが必要か判断することができる。 ・水質汚染が社会や生活、生物の生息環境に与える影響を認識し、環境基準達成のために汚染物質を処理する技術の適用について考察することができる。 ・土壌や地下水を汚染する物質の発生源と流出経路について考察し、汚染を防止するための対策を判断することができる。 ・悪臭など人間が感覚的に感じる量と騒音など物理的な測定値で表すことができる量を比較し、それぞれの特徴を説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大気汚染監視システム等から情報を入手し、身に付けた環境基準の知識と得た情報を比較しながら学習結果を検証しようとしている。 ・水質に関する環境基準は複雑で難解な部分が多く、排水の処理技術も多岐にわたっているため、学習形態を工夫して知識を身に付けようとしている。 ・今日までに発生した土壌汚染問題を調べ、それをもとに土壌汚染について学習しようとしている。 ・音に関する特性や音の数値化を理解するために対数やデシベルなどの数学的・工学的な知識を習得し、それを活用して学習に取り組もうとしている。
<p>第6章 産業と環境 1節 産業界の環境管理の取り組み 2節 環境リスクと安全管理の取り組み 3節 省エネルギーの取り組み 4節 再生可能エネルギーの取り組み 5節 廃棄物処理とリサイクルの取り組み 6節 大気・水環境保全への取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境マネジメントシステムやライフサイクルアセスメントの目的を理解し、環境ラベルとグリーン購入法についての基本的な知識を身に付けている。 ・環境リスクと安全管理に関する知識を習得し、化学物質による環境リスク低減のため安全データシートから必要な情報を読み取ることが 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業で環境への対応が求められるようになった背景を考察し、事業者が取り組んでいる環境管理の手法や法制度の内容を適切に説明することができる。 ・環境リスクが発生する要因を考察し、環境リスクを低減するためにはどのような安全衛生管理と化学物質の管理が必要であるか判断する 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者の環境問題への取り組みに関心をもち、企業が実際に展開している環境対応を調べることにより企業の社会的責任を理解しようとしている。 ・身近なところであったヒヤリハット事例を洗い出し、それを検証することにより環境リスクを少なくする方法を探索しようとしている。

	<p>できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業界の省エネルギーやエネルギーの有効利用状況を把握し、製品の省エネルギー性能を表示するためのラベルの見方を身に付けている。 ・日本の太陽光発電と風力発電の導入事例を理解し、年次データのグラフから導入量の変化を読み取ることができる。 ・リサイクルに関する法律が対象とする品目と、それを処理する各主体の役割および産業界で取り組んでいる環境対策の手法を理解している。 ・フロン類や揮発性有機化合物の使用にともなう問題点と、自動車の排出ガス規制および事業所における水の再生利用技術について理解している。 	<p>ことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業界の省エネルギーとエネルギー有効利用の必要性を考察し、製品の省エネルギーを進めるための制度について説明することができる。 ・太陽光発電と風力発電の導入量の推移グラフから、将来の導入量について予測・検討することができる。 ・事業活動において廃棄物の低減と3Rの推進は、どのような形で事業者の経営や循環型社会の構築に役立っていくのか判断することができる。 ・業務用冷凍空調機器からフロンの排出量が増加している要因および揮発性有機化合物の排出削減に向けた方策について考察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会においてエネルギーを節約することは、産業界や家庭にとってどのようなメリットがあるかそれぞれの視点に立って学習しようとしている。 ・再生可能エネルギーの導入効果を理解するため、次世代エネルギーパークの取り組みについて調べようとしている。 ・それぞれの主体や事業者が行う環境対策を今までの学習で身に付けた廃棄物の処理方法や3Rの知識を活用して理解しようとしている。 ・脱フロン化や低VOC化、自動車の排出ガス規制の強化などに関心を示し、個々の対策と環境保全対策を関連づけながら学習しようとしている。
<p>第7章 都市・生活と環境</p> <p>1節 都市システムと環境</p> <p>2節 住環境と健康</p> <p>3節 自然環境と防災・減災</p> <p>4節 環境保全に向けたさまざまな取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒートアイランド現象や水の利用、交通システムにおける環境問題を理解するとともに、いろいろなグラフから情報を読み取ることができる。 ・良好な健康を保つために空気や熱、光、音に求められる対策と、建物のエネルギー消費とその削減および環境性能に関する知識を身に付けている。 ・都市化や生活の近代化、地域の高齢化にともなう災害リスクと、災害への備えや防災・減災に向けた基本的な取り組みについて理解している。 ・人々の暮らしが環境に与えている影響を認識し、環境保全を進めていくためにはまちづくりや地域づくりが重要であることを理解してい 	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー消費とヒートアイランド現象の関係、水処理の必要性、交通システムの省エネルギーと環境汚染対策それぞれについて適切に説明することができる。 ・空気や熱、光、音が及ぼす健康への影響を考察し、住まいの省エネルギーや環境性能と地球環境に配慮した住まい方を研究することができる。 ・災害リスクが高まる状況を想像し、災害による被害の軽減や都市機能の維持、復旧・復興など、防災・減災の取り組みについて考察し、発表することができる。 ・環境保全のために必要な社会や人々の取り組みについて考察し、環境保全を進めていくために効果的な手法を検討することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や交通のエネルギーと水のシステムを理解するために、今までに学習した地球温暖化やエネルギーに関連する知識を再活用しようとしている。 ・地球環境に配慮した住まい方に関心をもち、住まいの環境性能向上によるメリットを自己の生活環境と対比させながら学習しようとしている。 ・過去の自然災害とその被害状況を現実的なものとしてとらえ、自治体のハザードマップなどを参考に防災と減災についての学習意欲を高めようとしている。 ・人々の日常生活が環境に与える影響について調べ、地域の環境保全を進めるためいろいろな意見を取り入れながら学習を進めようとして

る。

いる。

・1年間の評定は、1学期・2学期・3学期の年間を通じて、3つの観点をバランスよく総合的に判断して決定します。

3. 学習の計画と評価の観点

学期	月	学習内容	学習のねらい	評価の観点			考查範囲
				知・技	思・判・表	主	
1 学期	4	第1章 地球と人類 1節 地球の成り立ち 2節 地球上の資源	<ul style="list-style-type: none"> 地球の誕生から海洋や大気が形成された過程と、生命の誕生および進化の過程を理解させる。 地球の構造と水や炭素が地球上で循環するしくみについて学習し、循環のバランスが地球環境に深く関わっていることを認識させる。 エネルギー資源や鉱物資源、生物資源、水資源に関する知識を身に付け、それぞれにどのような特徴や問題点があるのか考えさせる。 いろいろな資源が社会や産業、人々の生活に与える影響を理解し、資源の望ましい利用方法を考えさせる。 	○			1学期 中間 考查
	5	3節 世界の資源と人間 第2章 社会と環境 1節 社会と環境の歴史	<ul style="list-style-type: none"> 世界人口の増加と、それにともなう資源の消費拡大について学習し、資源の生産量から見た将来の限界や資源利用のあり方を考えさせる。 世界の資源の偏在性と日本の物資の自給率について学習し、需要が急増しているレアメタルやレアアースに関する知識も習得させる。 産業革命からはじまる都市の環境問題や、日本の高度経済成長にともなって発生した公害問題に関する知識を習得させる。 公害に代わってオゾン層の破壊や地球温暖化などの地球環境問題と、それに向けた国際社会の取り組みを理解させる。 	○	○	○	
	6	2節 日本の環境政策 第3章 地球温暖化とエネルギー 1節 地球温暖化とその影響	<ul style="list-style-type: none"> 日本の環境政策と、それに関係する法律や基本計画および制度の概要を学習し、環境保全に対する法律の役割を理解させる。 持続可能な社会を構築するために、環境保全の担い手である国や地方自治体、事業者、市民、NPOそれぞれの役割と協働について考えさせる。 地球温暖化の原因と温室効果ガスの作用について学習し、地球温暖化のメカニズムに関する知識を身に付けさせる。 温室効果ガスの増加と平均気温の推移との関係から、将来の地球温暖化の予測と影響を把握し、温暖化に対する適応策と緩和策について考えさせる。 	○	○	○	1学期 期末 考查
	7	2節 エネルギーの利用技術と地球温暖化対策	<ul style="list-style-type: none"> 日本のエネルギーについて、供給から転換、消費に至る一連の過程を理解させる。また、諸外国の発電構成の違いについても比較、検討ができるようにする。 化石燃料や原子力、再生可能エネルギーのほか、最新のエネルギー転換技術とエネルギーを有効に利用する技術に関する知識を習得させる。また、低炭素社会に向けた取り組みについて考えさせる。 	○	○	○	

2 学 期	8 ・ 9	第4章 廃棄物とリサイクル 1節 廃棄物の現状 2節 廃棄物の処理技術と管理	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物の分類方法に関する知識を身に付けるとともに、経済成長とごみ問題との関連について考えさせる。 ・一般廃棄物や産業廃棄物について、ごみの種別や排出量および処理方法に関する知識を習得し、ごみの不法投棄や広域移動が発生する背景について考えさせる。 ・廃棄物の分別の必要性を認識させ、いろいろなごみの処理や管理方法と、環境対策技術に関する知識を習得させる。 ・廃棄物の適性処分のためのマニフェスト制度と、製品のライフサイクルからみた廃棄物削減の手法や関連する法律を理解させる。 	○	○	○	2 学 期 中 間 考 査	
	10	第5章 地域環境の保全 1節 大気汚染の現状と対策 2節 水質汚染の現状と対策	<ul style="list-style-type: none"> ・大気汚染が発生する原因と大気汚染物質の種類や特徴、基準値など、大気汚染の基本的な事項を理解させる。 ・大気汚染を防止するための集じんや、硫黄、窒素酸化物の除去技術、排出ガスの規制方法等の知識を習得させる。 ・水質汚染物質の種類と環境への影響や、水の汚れに関する指標、環境基準、排出基準について学習し、水質汚染の基本的な事項を理解させる。 ・水質汚染を防止するための排水の処理技術や、汚泥の処理方法に関する知識を習得させる。 	○		○		
	11	3節 土壌・地下水汚染の現状と対策 4節 騒音・振動・臭気の現状と対策 第6章 産業と環境 1節 産業界の環境管理の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌汚染の原因と汚染物質による影響や被害について学習し、土壌汚染対策が大気汚染や水質汚染と異なる点について考えさせる。 ・土壌汚染と地下水汚染、それぞれに対応する環境対策の手法を理解させる。 ・感覚公害の種類と特徴について学習し、騒音、振動、悪臭などの感覚公害が、ほかの公害と異なる点について考えさせる。 ・騒音を定量的に表すための感覚量と物理量との関係やその計算方法について学習し、一般的な騒音対策の方法を理解させる。 ・環境規制遵守のため、事業者に求められる自主的な取り組みや社会的な責任を理解させる。 ・環境マネジメントシステムやライフサイクルアセスメント、環境ラベルについて、その目的やしくみを理解し、環境対策と経済活動のあり方を考えさせる。 	○			○	
	12	2節 環境リスクと安全管理の取り組み 3節 省エネルギーの取り組み 4節 再生可能エネルギーの取り組み 5節 廃棄物処理とリサイクルの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・環境リスクとそれが発生する要因を学習し、環境リスクを低減するための安全管理の必要性を認識させる。 ・化学物質による環境リスクを最小化するために必要な評価方法と、化学物質の使用、排出にともなう管理に関する知識を身に付けさせる。 ・工場など産業部門で省エネルギーが進展した経緯と、事業所で進められているエネルギーの効率的な利用方法を理解させる。 ・製品の省エネルギー対策として、トップランナー基準や省エネルギーラベリング制度に関する知識を習得させる。 ・再生エネルギー導入量の推移について学習し、今後の再生可能エネルギーの普及に向けた対策について考えさせる。 ・消費者製品の廃棄物リサイクル処理に関して、法律による制度と消費者、自治体、事業者の役割について理解させる。 ・産業や流通段階で行われている3Rの取り組みについて学習し、循環型社会を構築していく必要性を認識させる。 	○	○		○	○

3 学 期	1	6節 大気・水環境保全への取り組み 第7章 都市・生活と環境 1節 都市システムと環境	<ul style="list-style-type: none"> 大気環境保全対策として生産現場で行われている脱フロン化や低VOC化、自動車の排出ガス規制とその対策技術に関する知識を習得させる。 事業所内における水資源の有効活用法として、水のクローズド化と再生利用技術を理解させる。 民生部門と交通部門のエネルギー消費について理解し、ヒートアイランド現象の要因とその対策を考えさせる。 都市の水需要と給排水処理について学習し、利水や治水の必要性を認識させる。 交通システムの現状を把握し、交通におけるエネルギー消費と環境対策について考えさせる。 	○					
	2 ・ 3	2節 住環境と健康 3節 自然環境と防災・減災 4節 環境保全に向けたさまざまな取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 空気や熱、光、音が健康に与える影響と、健康的で快適な住環境を維持するために、空気や音に関する規制値が設けられていることを理解させる。 住宅におけるエネルギー消費や建築のための資源および建物の環境性能について学習し、地球環境に配慮した住まい方を考えさせる。 自然災害の種類や災害の発生状況および災害のメカニズムと災害が発生した場合のリスクについて理解させる。 災害に備えるために自然環境と暮らしの関係を見直し、持続性のある防災と減災について考えさせる。 人々の生活が環境に与える影響を理解し、暮らしの中での環境保全のあり方について考えさせる。 地域の環境保全を進めるためのまちづくりや地域づくりの重要性を認識させる。 	○	○	○			
								○	○

学年末
考査